

### 和仏法律学校講義録

鶴見, 守義 / 副島, 義一 / 竹井, 耕一郎 / 秋山, 雅之介 /  
松井, 茂 / 小河, 滋二郎

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

3-3

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

55

(発行年 / Year)

1900-03-15

# 和佛法律學校

## 講義錄

第 參 部

第 參 號

刑 法 總 論 (自四九) 法律學士鶴見守義

刑 事 訴 訟 法 (自四六) 法律學士鶴見守義

憲 法 (自三九) 法律學士副島義一

行 政 法 (自二八) 法律學士竹井耕一郎

國 際 公 法 (戰 時) (自五七) 法律學士秋山雅之介

警 察 法 (自一九) 法律學士松井茂

監 獄 學 提 要 (自一六) 小河滋二郎



# 法學志林

第五號 三月五日發行

每月一回發行  
定價一冊金拾錢郵稅一冊金壹錢十冊前金壹圓郵  
稅不要  
校友生徒校外生ニ限リ  
特價一冊八錢郵稅壹錢十冊前金六拾錢郵稅不要

●志林  
●纂論  
●散錄  
●雜報  
●記事

●舉證ノ責任ヲ論ス、法學士棟居喜九郎●宗教ト國家、法學士宮本平九郎●保險ノ起源、法學士粟津清亮

●虛無主義論(承前)、校友木村誠次郎

●水去堂漫筆、水去堂主人

●農商務省ノ誤解○法律ノ曲解○裁判官ト辯護士ノ衝突○本人ヲ否認ス○殺傷事件○死刑廢止ノ  
●法律案○三豫納金ノ廢止○北海道ニ於ケル私立學校出身者ノ聯合會○法律案ニ關スル第十四議會  
ノ決議

●講師會○和佛法律學校校友會東京支部會○校友會評議員○討論會○圖書閱覽室資金寄附者氏名  
○校友異動

發行所 東京市麴町區富士見町六丁目 司法省指定 和佛法律學校  
(電話番町一七四)

第二說 島地ニ發遣シテ執行スル方法 此方法ハ内地ノ再犯者ヲ減少セシム  
ルノ效アルモ刑期ノ短キモノニ適用スルトキハ遂致日數ノ爲メニ實際刑ヲ執  
行セシメテ終ルコトナントセス故ニ此方法ハ長期ノ刑ニ非サレハ之ヲ適用ス  
ルヲ得サルコトト其經費ノ巨額ヲ要スルコトトノ缺點ナキニ非ス是ヲ以テ現  
行刑法ハ有期無期ノ徒流刑ニ付テノミ此方法ヲ用ヰタリ然ルニ第二說ヲ主張  
スニ論者ノ理由トスル所ハ内地ノ安全ト島地ヲ開拓スルノ利益アリト云フニ  
在ルモ前記缺點アルヲ以テ完全ノ說ナリト云フコトヲ得ス  
現行法ニ依レハ徒流刑ノ受刑者ノミ島地北海道ニ發遣シテ刑ヲ執行ス徒刑  
ハ定役ニ服スルモ流刑ハ然ラス徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス懲役禁獄以下ノ  
刑ハ内地ノ監獄ニ入レ懲役ハ定役ニ服セシメ禁獄ハ唯拘禁スルノミニテ定役  
ニ服セス又重禁錮ハ定役ニ服スルモ輕禁錮及ヒ拘留ハ定役ニ服スルコトナシ  
定役ニ服シタル受刑者ニハ其得タル利益ノ幾分ヲ給與ス又定役ニ服セサル受  
刑者ト雖モ其望ミニ依リテ定役ニ服スルコトヲ許セリ  
重罪輕罪ヲ別タス獄則ヲ遵守セ改役ノ狀アル者ニハ行政處分ニ由リ假出獄ヲ

090  
1900  
3-1-3

第二説 島地ニ發遣シテ執行スル方法 此方法ハ内地ノ再犯者ヲ減少セシムルノ效アルモ刑期ノ短キモノニ適用スルトキハ遂致日數ノ爲メニ實際刑ヲ執行セスシテ終ルコトナシトセス故ニ此方法ハ長期ノ刑ニ非サレハ之ヲ適用スルヲ得サルコトト其經費ノ巨額ヲ要スルコトトノ缺點ナキニ非ス是ヲ以テ現行刑法ハ有期無期ノ徒流刑ニ付テノミ此方法ヲ用非タリ然ルニ第二説ヲ主張スル論者ノ理由トスル所ハ内地ノ安全ト島地ヲ開拓スルノ利益アリト云フニ在ルモ前記缺點アルヲ以テ完全ノ説ナリト云フコトヲ得ス

現行法ニ依レハ徒流刑ノ受刑者ノミ島地北海道ニ發遣シテ刑ヲ執行ス徒刑ハ定役ニ服スルモ流刑ハ然ラス徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス懲役禁獄以下ノ刑ハ内地ノ監獄ニ入レ懲役ハ定役ニ服セルモ輕禁錮及ヒ拘留ハ定役ニ服スルコトナシニ服セス又重禁錮ハ定役ニ服スルモ輕禁錮及ヒ拘留ハ定役ニ服スルコトナシ定役ニ服シタル受刑者ニハ其得タル利益ノ幾分ヲ給與ス又定役ニ服セサル受刑者ト雖モ其望ミニ依リテ定役ニ服スルコトヲ許セリ

重罪輕罪ヲ別タス獄則ヲ遵守シ改悛ノ狀アル者ニハ行政處分ニ由リ假出獄ヲ

發行所

○東京 ○大阪 ○神戶 ○名古屋 ○京都 ○福岡 ○札幌 ○仙台 ○青森 ○秋田 ○山形 ○岩手 ○宮城 ○福島 ○茨城 ○栃木 ○群馬 ○埼玉 ○千葉 ○東京 ○神奈川 ○新潟 ○富山 ○石川 ○福井 ○山梨 ○長野 ○岐阜 ○愛知 ○三重 ○滋賀 ○京都 ○大阪 ○兵庫 ○奈良 ○和歌山 ○徳島 ○香川 ○愛媛 ○高松 ○岡山 ○広島 ○山口 ○熊本 ○鹿兒島 ○宮崎 ○鹿児島 ○沖縄





許スヘシ最モ多少ノ年月ヲ經過スルコトヲ要ス即チ無期徒刑ハ十五年有期徒  
刑以下ハ刑期四分ノ三ヲ經過セサルヘカラス無期有期ノ流刑ハ第二十一條ノ  
免幽閉ノ規定アリ假出獄ヲ許サレタル者ハ本刑ノ刑期限内ハ特別監視ニ付セ  
ラル刑法附則第三八條乃至第四七條若シ再ヒ犯罪ヲ爲シタルトキハ假出獄ヲ  
取消ス而シテ其出獄中ノ期間ハ刑期ニ算入セス刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シ  
タルトキハ獄則ヲ遵守シ改悛ノ狀アルモ法律上假出獄ヲ許スコトナシ

假出獄ニ關スル規定ヲ摘要スレハ左ノ如シ  
(イ) 假出獄ヲ受ケタルハ受刑者ノ利益ニシテ其權利ニ非ス故ニ之ヲ許スト否ト  
ハ一ニ行政官ノ意見ニ依ル

(ロ) 假出獄ハ總テ自由ヲ奪フヘキ刑ノ受刑者ニ適用ス(拘留及ヒ流刑ハ例外ナ  
リ)

(ハ) 假出獄ヲ許スニハ或法定期間内受刑者カ刑ノ執行ヲ受ケタルコトヲ要ス

(ニ) 假出獄ハ受刑者カ獄則ヲ遵守シ改悛ノ狀アルコトヲ要ス

(ホ) 假出獄ハ内務司法兩大臣ノ許ス所ナリ

(ヘ) 假出獄ノ許可ハ取消ルルコトアリ

(ト) 假出獄ノ取消シアリタルトキハ出獄日數ハ刑期ニ算入セス

(チ) 假出獄中ハ特別監視ニ付ス

第三 權利ニ對スル刑

權利ニ對スル刑ハ之ヲ二種ニ區別ス第一種ハ受刑者ニ或權利ヲ行ハシムルハ  
不當ナルカ故ニ其權利ヲ失ハシメ或ハ之ヲ制限ス(剝奪公權)停止公權ノ刑是ナ  
リ第二種ハ再ヒ犯罪ヲ爲スコトヲ豫防スルカ爲メ權利ヲ失ハシメ又ハ之ヲ制  
限ス(監視ノ刑)即チ是ナリ此二種ノ刑ハ共ニ附加刑ニシテ剝奪公權停止公權ハ  
(第三一條)重罪ノ刑ヲ受ケタル者ハ別ニ宣告ヲ爲サスシテ終身公權ヲ剝奪ス輕  
罪ノ刑ヲ受ケタル者ハ禁錮中又ハ監視中公權ヲ停止ス禁錮產モノノ附加刑ナリ  
シカ民法施行法第十四條ヲ以テ之ヲ廢止シタリ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ  
別ニ宣告ヲ用弁ス各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ期間監視ニ付ス(第三七條)輕  
罪ノ刑ヲ受ケタル者ハ各本條ニ記載シタル場合ニ限り宣告シテ監視ニ付ス(第  
三八條)刑法附則第二一條以下其他特別法ニ依リテ宛モ刑ト同シク權利ヲ剝奪

スルコトアリ例へハ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ文武官判事檢察辯護士又ハ巡查看守等ト爲ルコトヲ得サルカ如シ

第四 財産ニ對スル刑

財産刑ハ結局犯罪人ノ財産ヲ減少スルニ在リ而シテ此刑ニ二種アリ一ハ國庫ヲシテ或物ノ所有者タラシムル刑ニシテ一ハ國庫ヲシテ債權者タラシムル刑ナリ前者ハ沒收ノ刑ニシテ後者ハ罰金及ヒ科料追徴ノ刑是ナリ然レトモ私訴ノ目的トスル損害賠償贖物返還トハ全ク其性質ヲ異ニセリ故ニ或權利ノ侵害ノ結果タル制裁ト財産刑ノ性質トノ間ニ區別スヘキモノ三アリ

(一) 財産刑ハ法律ヲ以テ定メサルヘカラス即チ刑法其他罰則ヲ以テ之ヲ規定ス然レトモ損害賠償ノ如キハ法律ノミニ基カスシテ或ハ契約ニ因リテ生スルコトアリ

(二) 財産刑ハ必ス裁判所ニ於テ宣告スルコトヲ要ス然レトモ或權利ノ侵害ノ制裁ハ必スシモ裁判所ノ判決ヲ俟タス

(三) 罰金科料ノ刑ハ或犯罪ノ爲メニ宣告セラルルコトヲ要ス民事上ノ過料ハ

犯罪ノ爲メニ宣告セラルルモノニ非ス

罰金ノ刑ハ輕罪ノ刑ナルモ科料ハ違警罪ノ刑ナリ又重罪ノ刑ニハ罰金ナク故ニ罰金ハ挑發ニ基ク犯罪ノ如キ即チ情慾ニ關スル犯罪ニ科スルコトナシ何トナレハ此ノ如キ場合ニ此刑ヲ科スルモ毫モ懲戒ノ效ナクレハナリ是ヲ以テ唯利慾ニ基ク犯罪ニ限リ之ヲ科ス然レトモ本刑ノ效用ハ一般ノ犯罪人ニ均一ナラス蓋シ其犯人ノ貧富ニ依リテ苦痛ノ程度ヲ異ニスレハナリ

罰金ハ二圓以上ニシテ其額ノ多寡ハ總テ各本條ニ於テ之ヲ特定ス科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下トス

罰金ハ一ノ刑ナルカ故ニ其結果トシテ茲ニ左ノ規定アリ

(一) 罰金ハ犯罪人ニ固有ノモノナリ故ニ犯人死亡後ニ於テハ相續人及ヒ民事擔當人ニ對シテ之ヲ宣告スルコトヲ得ス又犯罪人數人アリタルトキハ其各自ニ對シテ之ヲ宣告スルコトヲ要ス

(二) 罰金ハ法律ニ明文アルニ非サレハ之ヲ宣告スルコトヲ得ス

(三) 罰金ノ刑ハ他ノ刑ト同シク時効ニ罹ル

(四)罰金ノ刑ニ付テモ數罪俱發例ヲ適用ス

法定ノ範圍内ニ於テ罰金ノ額ヲ定ムルコトハ事實裁判官ノ職權ニ屬スルモノナリ而シテ罰金ニ付テ利益ヲ受クルハ國庫ナルモ或場合ニハ犯罪ノ告發人若クハ申告人ヲ利スルコトアリ例ヘハ富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ハ罰金ノ半額ヲ給與スルカ如ク明治十五年富籤法第四條又密輸出入ヲ稅關ニ申告スル者ニ沒收シタル貨物ノ代價ノ半額ヲ給スルカ如ク明治二十三年稅關規則第五三條

罰金ノ徵收方法ハ裁判確定後一個月内ニ納付セシメ若シ納付セザルトキハ罰金一圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮ニ換フ其金額ニ端數ヲ生シ一圓ニ滿タザルトキト雖モ一日ニ計算ス是レ即チ換刑處分ニシテ檢事ノ請求ニ因リ本案裁判所ノ裁判長之ヲ命スルモノナリ然レトモ罰金ノ額如何ニ多數ナリト雖モ其換刑處分ハ二年ヲ過クルコトヲ得ス又換刑シタル後禁錮限内罰金ヲ納付スルトキハ其納付者ノ受刑者タルト親屬其他ノ者タルトヲ問ハス經過シタル日數ヲ控除シテ禁錮ヲ免ス(第二七條第四二條科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ完納セシム若シ

完納セザルトキハ罰金ノ例ニ從ヒ拘留ニ換フルモノナリ(第三〇條)

沒收トハ法律ニ於テ定メラレ且ツ犯罪ニ直接關係アル動産物ニ對スル刑ヲ謂フ即チ其物ヲ所有者ヨリ奪ヒ官ノ所有ト爲スモノナリ而シテ沒收スヘキ物件ニ付テハ刑法第四十三條ニ之カ規定アリ

一 法律ニ於テ禁制シタル物件 之ヲ例セハ偽造貨幣偽造證書ノ如キ物ニシテ之ノ名ケテ應禁物又ハ禁制物ト云フ

二 犯罪ノ用ニ供シタル物件 之ヲ例ヘハ數人ノ爲メ用井タル刀劍或ハ竊盜ヲ爲スカ爲メ用井タル合鍵又ハ梯子ノ如キ物ヲ云フ

三 犯罪ニ因テ得タル物件 之ヲ例セハ竊盜又ハ詐欺取財ニ因テ得タル物件ノ如キ即チ是ナリ

右ハ法律ノ規定ニ依リテ初メテ之ヲ沒收スルコトヲ得ルモノナリ而シテ禁制物ハ何人ノ所有ニ拘ラフ之ヲ沒收スルコトヲ得ルモノニシテ犯人ノ所有ニ屬スルトキハ勿論他人ノ所有ニ屬スルトキト雖モ之ヲ沒收スルコトヲ得ヘト雖モ犯罪ノ用ニ供シ又ハ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ屬スルカ若

クハ所有者ノ何人タルヤ不明ナル場合ニ非ナレハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス此  
 差異アル所以ハ禁制物ハ元來其物自體カ社會ニ存在スルコト有害ナルヲ以テ  
 何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收スレトモ犯罪ノ用ニ供シ又ハ犯罪ニ因  
 テ得タル物件ハ其物自體ハ有害ノモノニ非スヤテ之ヲ沒收スルハ犯人ニ苦痛  
 ヲ與ヘ又ハ不正ノ利得ヲ得セシメザランカ爲メニ外ナラサレハ其物件カ他人  
 ニ屬シ其所有者カ分明ナル場合ニ於テ之ヲ沒收スルヲ得サルハ當然ノコトナ  
 ルヲ以テナリ

沒收ノ刑ハ直接其物ヲ沒收スルモノニシテ他物ヲ代ヘテ沒收スルヲ許サス然  
 レトモ例外トシテ他物ヲ代ヘテ沒收スルコトナキニ非ス例ヘハ稅關法第十二  
 條ニ於テ不開港ニ外國品ヲ輸入シタルトキハ其貨物ヲ沒收シ若シ販賣シテ其  
 貨物ナキトキハ其代金ヲ追徵スヘキモノト規定シタルカ如シ又沒收ハ一ノ附  
 加刑ナルカ故ニ犯罪人ニ對シテ之ヲ宣告スルヲ得サルモノトス  
 民事擔當人ニ對シテ之ヲ宣告スルヲ得サルモノトス  
 是ヲ以テ刑ノ處分即チ主刑及ヒ附加刑ノ處分ハ之ヲ說了セリ而シテ茲ニ附言ス

ヘキハ刑ニ非スシテ裁判所カ仍ホ宣告スル所ノモノナキニ非ス即チ公訴  
 裁判費用ノ負擔押收物件ノ還付及ヒ私訴ノ判決是ナリ公訴裁判費用トハ刑事  
 事件ニ付キ支出シタル費用ニシテ例ヘハ證人鑑定人ノ喚問若クハ通事ヲ用ル  
 タル爲メ要シタル費用ノ如キモノナリ其費用ハ犯人ニ於テ全部又ハ幾分ヲ負  
 擔スルモノニシテ其負擔額ヲ定ムルハ事實裁判官ノ職權ニ屬スルモノトス(刑  
 法四五條第四七條刑訴第二〇一條第一項押收物件ノ還付トハ證據ノ爲メ差押  
 ヘタル物件ヲ其所有者ニ還付スルコトヲ云フ此還付ノ言渡ハ所有者ヨリ請求  
 セサルモ之ヲ爲スヘキモノトス(刑訴第二〇二條又私訴ノ判決即チ贓物返還又  
 ハ損害賠償ノ裁判ハ被害者ノ請求ニ因リテ之ヲ爲スモノナリ然レトモ贓物カ  
 現ニ犯人ノ手ニ在ルトキハ私訴ノ申立ナキモ被害者ニ還付スルノ言渡ヲ爲サ  
 サルヘカラス何トナレハ被害者ヨリ贓物返還ノ申立ナケレハ之ヲ還付スル能  
 ハサルモノトセハ勢ヒ之ヲ犯人ニ還付セサルヘカラス然ルトキハ犯人ハ犯罪  
 ノ目的ヲ達シ不當ノ利得ヲ受クルニ至ラン是レ豈ニ條理ニ適スルモノナラン  
 ヤ故ニ縱令其申立ナクモ原狀ニ復スル爲メ之ヲ被害者ニ還付スルモノナリ(刑

第四六條乃至第四八條

第四節 刑期計算

刑期ヲ計算スルニハ一日ハ二十四時間ヲ以テシ一月ハ三十日ヲ以テシ一年ハ  
 曆ニ從テ而シテ受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入  
 セス又刑期ヲ計算スル起算點ハ刑名宣告ノ日ヲ以テシ若シ上訴アリタルトキ  
 ハ其上訴提起者ノ犯人ナルト檢事ナルトニ依リテ起算點ヲ異ニス即チ犯人ノ  
 爲シタル上訴ニシテ正當ナルトキハ前判決宣告ノ日ヨリ起算シ其上訴不當ナ  
 ルトキハ上訴ニ付キ判決アリタル日ヨリ起算ス又檢事ヨリ上訴アリタル時ハ  
 其上訴ノ正當ナルト否トヲ問ハス前判決宣告ノ日ヲ以テ其起算點ト爲ス又上  
 訴中保釋責付ヲ得タルトキハ其保釋責付中ノ期間ハ之ヲ刑期ニ算入セス尙ホ  
 刑期内犯人逃走シテ再ヒ逮捕セラレタルトキハ其逃走中ノ日數ヲ控除シ前後  
 ノ受刑ノ日ヲ計算ス故ニ殘餘ノ期間ニ付テハ刑ノ執行ヲ受ケサルヘカラス

第五節 期滿免除(刑ノ時効)

刑ノ時効ハ之ヲ三段ニ區別シテ説明スヘシ  
 一 時効ノ範圍 刑ノ時効ハ有形的執行ヲ要スル刑ノミニ適用ス故ニ何等ノ  
 行爲ヲモ加ヘスシテ判決確定スレハ直チニ效力ヲ生スヘキ刑ハ時効ニ係ラス是  
 ヲ以テ身體刑自由刑財産刑ノ如キハ有形的ニ之カ執行ヲ要スル刑ナルカ故ニ  
 時効ノ適用ヲ受クヘシト雖モ剝奪公權停止公權ノ如キハ判決確定スレハ其效  
 力ヲ生スヘキ刑ナルカ故ニ時効ニ係ルコトナシ又禁制物ノ沒收及ヒ監視ノ刑  
 ハ執行ヲ要スル刑ナルモ是レ例外ニテ時効ニ係ラサルモノトス  
 二 時効ノ期間 刑ノ時効期間ハ公訴ノ時効期間ヨリモ遙ニ長ク其刑ノ輕  
 重ニ從テ期間ニ差等アリ即チ最長期ヲ三十年トシ最短期ヲ一年トス(第五九條)  
 而シテ時効期間ノ起算點ハ對席判決ニ付テ刑ノ執行ヲ通レタル日ヨリ起算  
 シ再ヒ逃走シタルトキハ逃走ノ日ヨリ起算ス又闕席判決ニ付テハ缺席判決宣  
 告ノ日ヨリ起算ス是レ即チ此時ヨリ執行ヲ通レタルモノト看做スニ由ルナリ

(第六一條) 又時效期間ノ延長ハ時效中斷ヲ以テ爲ス其方法ハ檢事カ逮捕狀ヲ發スルヲ以テ足ル而シテ一度時效ヲ中斷セラレタルトキハ其中斷セラレタル時ヨリ以前ノ期間ハ全ク消滅シ其中斷ノ手續終了シタル日ヨリ更ニ新時效ノ進行ヲ始ム然レトモ檢事カ逮捕狀ヲ發スルハ其制限ナキカ故ニ時效中斷ハ幾回之ヲ行フモ敢テ妨ケナキナリ是レ時效ノ制ヲ定メタル法律ノ精神ニ協フモノト云フコトヲ得ス

三 時效ノ效力 刑ノ時效ノ效力ハ特赦ノ效力ト同シキカ故ニ刑ノ執行ヲ免ルルモ刑ヲ受ケシコトハ消滅スルモノニ非スシテ所謂前科附ノモノナレハ再ヒ罪ヲ犯セハ再犯ヲ以テ論セラル又時效ヲ得タル者ハ復權ヲ受クルコトヲ得ヘシ

### 第六節 復 權

重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ當然終身公權ヲ剝奪セラレ然レトモ本刑ノ執行ヲ終了シ眞心改悟シタル者ニ向ヒ猶ホ公權ヲ剝奪シ措クノ必要ナカルヘシ故

ニ法律ハ之ヲ回復スルノ道ヲ開キタリ復權ノ制即チ是ナリ然ルニ既ニ喪失シタル公權ヲ回復スルハ重大ナル事ナルヲ以テ勅裁ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス復權ハ或法定ノ期間ヲ經過シタル後ニ非サレハ之ヲ許サス即チ本刑ノ執行ヲ終リタル後五今年又時效ニ因リ本刑ノ執行ヲ免レタルトキハ監視ニ付タタル時ヨリ五今年ヲ經過スルコトヲ要ス大赦ニ因リテ刑ヲ免セラレタル者ハ直チニ公權ヲ回復ス特赦ニ因リテ刑ヲ免セラレタル者ハ特赦狀中ニ記載アルトキニ限り公權ヲ復ス

復權願ヲ爲ス手續ハ公權ヲ剝奪セラレタル者ノ住居地ノ檢事ニ願書ヲ提出シ檢事ハ之ヲ調査シタル上意見書ヲ添ヘ檢事長ニ提出シ檢事長ハ更ニ之ヲ調査シタル上意見書ヲ添ヘ司法大臣ニ提出シ司法大臣ハ其書類ヲ檢閲シ意見書ヲ添ヘテ上奏シ勅裁ヲ仰クモノナリ而シテ裁可アリタルトキハ司法大臣ヨリ檢事長ニ送付シ檢事長ハ願書ヲ提出シタル檢事ニ送致シ檢事ハ其願本ノ一通ヲ願人ニ下付シ一通ヲ判決ヲ爲シタル裁判所ニ送致スヘシ其裁判所ニ於テハ判決ノ原本ニ之ヲ記入スヘシ若シ復權願ヲ却下セラレタルトキハ司法大臣ヨリ

檢察長ニ檢察長ヨリハ願書ヲ提出シタル檢察ニ通知スヘシ此場合ニ於テハ更ニ二年半ヲ經過シタル後ニ非サレハ復權願ヲ爲スコトヲ得ス刑訴第三二四條乃至第三三〇條

### 第三章 加減例

加減例ハ重罪刑輕罪刑違警罪刑ノ各刑ニ就テ其例ヲ異ニス即チ重罪刑ノ加重減輕ハ普通犯ノ刑ハ死刑無期徒刑有期徒刑重懲役輕懲役ノ順序ニ依ル又國事犯ノ刑ハ死刑無期徒刑有期徒刑重禁獄輕禁獄ノ順序ニ依ル故ニ重罪刑ハ一等毎ニ刑名ヲ變更スルモノナリ而シテ重罪刑ニ於テハ死刑以下ノ刑ヲ加重シテ死刑ニ入ルコトヲ許ササルヲ以テ其原則トシ又重罪刑ヲ減等シテ輕罪刑ト爲ストキハ二年以上五年以下ノ重禁錮又ハ輕禁錮ニ處スルヲ以テ其原則トス輕罪刑ノ加重ハ刑期又ハ金額ノ四分ノ一ヲ加フルヲ一等加ト爲シ四分ノ一ヲ減スルヲ一等減ト爲ス然レトモ輕罪ノ刑ヲ加重シテ重罪ノ刑ニ入ルコトヲ許サス唯禁錮ノ刑ハ七年マテ加重スルコトヲ得又禁錮又ハ罰金ノ刑ヲ減盡シタ

ルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス(第六六條乃至第七一條)  
違警罪刑ノ加減例ハ輕罪刑ト同シタ刑期又ハ金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等トス而シテ違警罪刑ヲ加重シテ輕罪刑ニ入ルコトヲ許サス但シ拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ルコトヲ得ルモ減シテ一日以下ニ降スコトヲ得ス科料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルヲ得ルモ減シテ五錢以下ト爲スコトヲ得ス尙ホ禁錮拘留ノ加減ニ因テ端數ヲ生シ一日ニ滿タサルトキハ之ヲ除棄ス又附加ノ罰金モ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲シ若シ之ヲ減盡シタルトキハ主刑ノミヲ科ス(第七二條乃至第七四條)

### 第四章 不論罪及ヒ減輕並ニ刑ノ全免

#### 第一節 不論罪

不論罪トハ犯罪ノ要素ヲ欠缺スルカ爲メ罪トシテ論セサルヲ謂フ既ニ本法第二條ヲ説明スルニ當リ犯罪人ヲ罰スルニハ四個ノ要素即チ有形ノ要素無形ノ要素法律ノ要素及ヒ不正ノ要素ヲ必要トスル旨ヲ説述シタリ茲ニ所謂不論罪

刑法總論 不論罪及ヒ減輕並ニ刑ノ全免 不論罪

ハ右要素中ノ無形ノ要素若クハ不正ノ要素ノ一ヲ欠缺スル場合ナリ而シテ罪ヲ論セスト云ヘハ刑法上此法語ヲ用非タル場合第三百七十七條及ヒ第百二條ノ場合ノ如シハ總テ不論罪ナルカ如キモ未タ直チニ真ノ不論罪ト論決スルコトヲ得サルナリ

何人ト雖モ刑法上又ハ民法上ニ於テ有形的不正ノ所爲ニ對シ其行爲者ニ責任ヲ負ハシムルコトヲ得ヘキ場合ニ非サレハ其責任ナシ又責任ヲ生スルニハ必ス罪過ナカルヘカラス此責任又ハ罪過ニ付テハ多少ノ程度アルモノニシテ均一ノモノニ非ス而シテ犯罪ノ要素トハ予輩ノ茲ニ所謂罪過即チ是ナリ此罪過ニ二要件アリ(第一)無形上行爲ノ責任ヲ其人ニ負擔セシメ得ルコト(第二)其人カ其行爲ヲ爲スノ權利ヲ有セサルコトヲ要ス故ニ若シ第一ノ要件ヲ缺クトキハ犯罪ヲ構成セサル原因ト爲リ第二ノ要件ヲ缺クトキハ正當ノ事由ト爲リ復タ罪トシテ論スヘキモノニ非ス以下此二要件ニ付キ之ヲ詳述スヘ

第一 犯罪ヲ構成セサル原因

人ノ犯罪者タルニハ必ス犯意アルコトヲ要ス然ラハ犯意トハ如何犯罪ヲ爲ツ

ノ效ヲ生セス又權限アル官吏ノ爲シタル手續ト雖モ法律ノ規定ニ背キタルトキハ時効ヲ中斷スルノ效ナキモノナリ刑事訴訟法第十二條ニ云ク「起訴豫審又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スルトキハ時効ノ經過ヲ中斷スル效ナカル可シ」ト然レトモ裁判所ノ管轄違ノ爲メ右手續カ無効ニ屬スルトキハ時効ノ經過ヲ中斷スル效力アルモノトス同條末段ニ云ク「但裁判所ノ管轄違ナルニ因リ其手續ノ無効ニ屬スルトキハ此限ニ在ラス」ト管轄違ノ場合ニ限リ何故手續カ無効ニ屬スルトモ時効中斷ノ效力アリトシタルヤ是レ蓋シ管轄違以外ノ場合ニ在テ手續カ無効ニ屬スルトキハ裁判所ハ公訴不受理ノ言渡ヲ爲シ其訴ハ全クナキモノトナルヘシト雖モ管轄違ノ場合ニ於テハ裁判所ハ單ニ管轄違ヲ言渡スノミニシテ其訴ハ依然トシテ生存スルヲ以テナリ管轄違ヲ言渡ス場合ニ於テ其訴カ依然トシテ生存スルコトハ刑事訴訟法第二百二十二條第二項ニ依リ裁判所カ前拘留留狀ヲ存シ又ハ新拘留留狀ヲ發スル職權ヲ有スルコトアルヲ以テ見ルモ之ヲ推知スルコトヲ得ヘ



イ) 已ニ經過シタル期間ハ總テ無効ニ屬シ公訴權行使ノ手續ヲ止メタル日ヨリ更ニ其期間ヲ起算ス(第一一條第二項)

ロ) 中斷ノ效力ハ無限ニシテ犯人各自ニ對シテハ勿論未タ發覺セザル正犯從犯及ヒ民事擔當人ニ對シテモ中斷ノ效アルモノトス(第一一條第一項其理由ハ蓋シ公訴權行使ノ手續ニ依リ社會ハ法律上犯罪ノ記憶ヲ喚起シタルニ依リ其何人ニ對スルヤヲ問ハス中斷ノ效ヲ有セシムヘキハ當然ナルノミナラス證據ノ湮滅社會ノ遺忘ハ犯罪事件ニ關スルモノニシテ犯人ニ關係ナキモノナルヲ以テナリ

三 效果 公訴ノ時効ノ效果ハ大赦ト等シク或所爲ノ犯罪タル性質ヲ消滅セシムルニ在リ

是ヨリ私訴ノ時効ニ付キ講述セシ

私訴ノ時効ハ其期間起算點延長ノ原因トモ公訴ノ時効ト全ク同一ナリ而シテ其之ヲ同一視スルヤ毫モ斟酌スル所ナシ故ニ私訴ヲ獨立シテ民事裁判所ニ提起スルトキト雖モ時効期限ハ公訴ノ時効ト連命ヲ共ニシ又民法ノ規定ニ從ハ

ハ債權者カ無能力ナルトキハ其能力者ト爲リ又ハ法定代理人ノ就職シタルトキヨリ六个月内ハ時効ハ停止スルモノナリト雖モ私訴ニ付テハ假令被害者即チ債權者カ無能力ナルトキト雖モ時効ハ停止スルコトナク公訴ト其連命ヲ共ニスルモノナリ是レ刑事訴訟法第九條ノ規定スル所ナリ

何故右ノ如ク私訴ノ時効ヲ公訴ノ時効ト同一ニセザヤ公訴ノ時効ヲ設ケタル理由ハ前已ニ講述シタルカ如ク社會カ犯罪ヲ遺忘シタルニ基クモノナリト雖モ其期間ヲ遂警罪ハ六月輕罪ハ三年重罪ハ十年ト之ヲ短縮シタルハ恐ラクハ立法者ニ於テ人ノ身體生命及ヒ名譽ニ關スル大事ヲ長ク人證等ニ委スルハ危險ナルカ故ニ謀殺罪ノ如キ重罪ト雖モ十年ヲ經過スレハ時効ニ罹ルモノト爲シタルナリ之ヲ要スルニ數年ノ後人證等ニ基キ獄ヲ斷スルハ甚タ危險ナルカ故ナリ已ニ公訴ニ付テ人證等ニ信用ヲ措クヘカラサルモノトセハ私訴ニ付テモ同様信用ヲ措キ難カラシク若シ又私訴ノ時効期間ヲ公訴ノ時効期間ヨリ長クセハ公訴ノ時効ニ罹リタル後民事原告人ハ訟廷ニ於テ犯罪ノ事實ヲ證明スルコトナシトセス果シテ然ラハ社會ハ一面ニハ被告カ犯罪ヲ爲シタリトシテ私訴ニ

對シ賠償ヲ命シ他ノ一面ニハ公訴ハ時效ニ罹リタリトテ刑ヲ科スル能ハサル  
奇觀ヲ呈スルニ至ラン是レ私訴ノ時效ヲ公訴ノ時效ト同一ニ規定シタル所以  
ナリ

私訴ノ時效ヲ公訴ノ時效ト同一ニシタル理由右ノ如クナルヨリ其結果トシテ  
公訴ニ付キ已ニ刑ノ言渡アリタルトキハ私訴ノ時效ハ民法ノ時效ノ例ニ從フ  
トノ規則生スヘシ(第九條第二項)何トナレハ公訴ニ付キ刑ノ言渡アルトキハ犯  
罪ヲ爲シタル證據ハ確實ト爲ルヲ以テ此場合ニ在テハ最早私訴ノ時效ヲ公訴  
ノ時效ト同一ニスルノ必要ナキヲ以テ民法ノ時效ノ例ニ從ハシムヘキハ當然  
ナルヲ以テナリ民法ニ從ヘハ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ不法行爲ノ  
時ヨリ二十年ヲ以テ時效ニ罹ルヘシト雖モ若シ被害者又ハ其法定代理人ハ損  
害及ヒ加害者ヲ知リタル時ヨリ三年間請求ヲ爲ササルトキハ時效ニ罹ルモノ  
ナリ(民法第七二四條)

私訴ノ時效モ公訴ノ時效ト同シク裁判所ノ職權調査ニ屬スルモノナリ何トナ  
レハ私訴ノ時效ハ被告人ノ申立ナキモ裁判所ハ之ヲ援用セサルヘカラサルヲ  
以テ公訴カ時效ニ因リ消滅シタルニ拘ラス私訴ハ被告人ノ申立ナキニ依リ  
裁判所カ之ヲ援用スル能ハサルモノトセハ公訴消滅後私訴ニ關シ公訴ノ事實  
ヲ證明シテ暗ニ犯人タルコトヲ認メシムルニ至リ結局法律カ私訴ノ時效ヲ公  
訴ノ時效ト同一ニシタル目的ヲ達スル能ハサル結果ヲ生スルニ至ルヘキヲ以  
テナリ

茲ニ一ノ疑問アリ开ハ重罪ニ付キ公訴ノ時效成就シタル後犯罪ヲ證明セス單  
ニ過失等ヲ原因トシテ加害者ニ對シ民事上ノ損害賠償ヲ求ムルコトヲ許スヘ  
キヤ否ヤト云フニ在リ余ハ此疑問ニ付テハ其訴ハ許スヘカラサルモノト信ス  
ルモノナリ何トナレハ若シ之ヲ許スモノトセンカ此訴ニ於テ證人トシテ事實  
ノ證言ヲ爲ス者ハ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ  
誓フヘキカ故ニ結局此訴ニ於テ公訴ノ事實ヲ證明シ暗ニ犯人タルコトヲ認メ  
シムルニ至リ是レ亦法律カ私訴ノ時效ヲ公訴ノ時效ト同一ニシタル目的ヲ達  
スル能ハサル結果ヲ呈スルニ至ルヘキヲ以テナリ

公訴カ時效以外ノ原因ニ因リ消滅シタルトキハ私訴ノ時效ハ公訴ノ時效ト連

命ヲ共ニスルヤ此疑問ニ付テハ場合ヲ分テテ之ヲ論セサルヘカラス若シ其原因カ被告人ノ死去ノ如ク犯罪タルノ性質ヲ失ハシメタル場合ニ於テハ私訴ハ公訴ノ時効ト運命ヲ共ニスヘシト雖モ若シ又其原因カ大赦刑ノ廢止告訴ノ拋棄又ハ無罪免訴ノ言渡ノ如ク犯罪ノ性質ヲ失ハシムヘキモノナルトキハ私訴ハ民法ノ時効例ニ從ハシメサルヘカラス

私訴權消滅ノ原因ハ公訴權消滅ノ原因ト相同シカラス故ニ公訴ニ特別ナル消滅原因アリ私訴ニ特別ナル消滅原因アリ又公訴私訴ニ共通ナル消滅原因アリ故ニ被告人ノ死去及ヒ大赦ハ公訴ヲ消滅セシムヘキモ私訴ヲ消滅セシムル能ハス又私和ハ私訴ヲ消滅セシムルニ足ルモ公訴ヲ消滅セシムヘキモノニアラス又公訴私訴ニ共通ノ原因ハ確定判決及ヒ時効ノ如キ即チ是ナリ

以下刑ノ時効ニ付キ講述セン

刑ノ時効ニ付キ講述スヘキ點ハ(一)時効ノ範圍(二)其期間(三)其效力即チ是ナリ

一 範圍 刑ノ時効ハ執行ヲ爲スヘキ刑ノミニ適用スヘキモノニシテ何等ノ行為ヲ加ヘス判決確定スレハ直チニ效力ヲ生スヘキ刑ハ時効ニ罹ラサルモノナリ

故ニ體刑及ヒ財産ニ關スル刑ハ時効ニ罹ルト雖モ權利ヲ喪失セシムヘキ刑ハ時効ニ係ラス體刑トハ生命ヲ奪ヒ或ハ自由ヲ束縛スル死刑徒刑懲役禁錮拘留ノ刑ノ如キヲ云ヒ財産ニ關スル刑トハ罰金科料沒收ノ刑ノ如キヲ云フ權利ヲ喪失セシムヘキ刑トハ剝奪公權停止公權ノ如キヲ云フ

體刑及ヒ財産ニ關スル刑ハ時効ニ係ルヲ以テ原則トスレトモ監視並ニ禁制物沒收ノ刑ハ時効ニ係ラサルモノトス(刑法第六〇條)

二 期間 期間ニ付テハ期間其起算點及ヒ期間延長ノ原因三ツニ分テ講述スヘシ

刑ノ時効ハ公訴ノ時効ヨリ其期間長ク且ツ刑ノ重キニ從ヒ其期間長キモノナリ刑法第五十九條ニ曰ク「主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得(一)死刑ハ三十年(二)無期徒刑ハ二十五年(三)有期徒刑ハ二十年(四)重懲役重禁獄ハ十五年(五)輕懲役輕禁獄ハ十年(六)禁錮罰金ハ七年(七)拘留科料ハ一年下

刑ノ時効ハ對席判決ニ付テハ被告カ刑ノ執行ヲ通レタル日ヨリ起算ス故ニ例ヘハ拘留ニ處セラレ今日ヨリ將ニ其執行ヲ受ケントシタル者カ今日即チ明治

三十二年十月三十日逃亡シタルトキハ其時効期間ノ一年ハ今日ヨリ起算シ明年十月二十九日ヲ以テ成就スルモノナリ若シ又捕ニ就キ再ヒ逃走シタルトキハ其逃走ノ日ヨリ起算スルモノナリ又缺席判決ニ付テハ時効ノ期間ハ其宣告ノ日ヨリ起算スヘシ何トナレハ缺席判決ノ場合ニ於テハ被告カ何時ヨリ刑ノ執行ヲ通レ居ルヤ知ル能ハサルヲ以テ其宣告ノ日ヨリ執行ヲ通レ居ルモノト看做シ其日ヨリ期間ヲ起算スルモノナリ刑法第六一條)

刑ノ時効期間ヲ延長スル原因ハ時効ノ中断ニシテ時効ヲ中断スルハ逮捕狀ヲ發スル事即チ是ナリ故ニ逮捕狀ヲ發スルトキハ已ニ經過シタル所ノ期間ハ全ク無効ニ歸シ其令狀ヲ發シタル日ヨリ更ニ時効ヲ起算スルモノナリ而シテ現行法ニ依レハ其令狀ヲ發スルハ一回ニ止マラス幾回ニテモ之ヲ發スルヲ得ヘク幾回モ令狀ヲ發シタルトキハ最終ノ令狀ヲ發シタル日ヨリ時効ヲ起算スルモノナリ故ニ現行法ニ從ヘハ檢事ニ於テ限りナク令狀ヲ發スルトキハ時効ニ因リ刑ノ消滅スルコトハ之ナキニ至リ法律上ノ時効ヲ設ケタル精神ヲ貫徹スルコト能ハサラシムルニ至ラン

三 效力 刑ノ時効ノ效力ハ特數ノ效力ト同シク刑ノ執行ハ爲サザルモ其刑ヲ根本的消滅セシムルモノニアラス又時効ニ因リ刑ヲ免レタルモノハ特數ヲ受ケタル者ト同様復權ヲ受ケルコトヲ得ヘシ刑法第六三條第六四條)

時効ニ因リ刑ノ執行權消滅ノ原因ノ外刑ノ執行權ハ再審及ヒ非常ニ上告ノ結果消滅ニ歸スルコトアリ私訴ノ執行權モ亦再審ノ結果消滅スルコトナキニアラズ

茲ニ一ノ疑問アリ开ハ公訴並ニ刑ノ時効ニ付キ新舊兩法期間ヲ異ニスルトキハ兩法中其何レヲ適用スヘキヤト云フニ在リテ右ハ刑法ノ問題ニ屬スルヲ以テ同法ノ講義ニ讓ラン

茲ニ公訴ニ關シ一言スルコトアリ开ハ刑法ノ目的ハ刑ヲ實行シテ人ヲシテ再ヒ罪ヲ犯サシメサルニ在リ而シテ刑法及ヒ刑事訴訟法ハ屬地法ナルカ故ニ内國人ナルト外國人ナルトヲ問ハス日本國內ニ於テ罪ヲ犯シタルモノアルトキハ總テ該法ヲ適用處斷スルモノトス何トナレハ屬地法ニ於テハ犯人其人ニ重キヲ置カスシテ犯罪地ニ重キヲ置クノミナラス一國ノ安寧秩序ニ關スル場合

ニ於テ外國法ヲ適用スルハ其國ノ自治權ヲ害シ其生存ヲ傷タルノ恐レアリ且  
 ヲ國際公安ニ反スルノ恐レアルヲ以テナリ  
 內國人ハ內國ニ在ルト外國ニ在ルトヲ問ハス本國ノ刑法及ヒ刑事訴訟法ヲ遵  
 守スルコトヲ要ス何トナレハ刑法ハ我人民ニ對シ或行爲ヲ禁シ又ハ或行爲ヲ  
 命シ人民ノ義務ヲ定メタルモノナレハ我人民ハ假令本國ヲ去テ外國ニ住スル  
 モ刑法ヲ遵奉スルノ義務アルハ當然ナレハナリ故ニ本邦人カ外國ニ於テ罪ヲ  
 犯シタルトキハ本國法ニ從ヒ處罰セラルルモノナリ然レトモ若シ其行爲カ外  
 國法ニ於テモ罪ト爲ルトキハ外國法ニ照シ處罰セラルルコトナシトセス  
 右ハ刑法草案第三條以下ニ規定スル所ナルノミナラス一般ニ學者ノ公認スル  
 所タリ

尙ホ茲ニ一言スルコトアリ开ハ私訴ニ反シテ被告人ヨリ告訴人被告人又ハ民  
 事原告人ニ對シテ損害ノ賠償ヲ求ムル權利アルコト即チ是ナリ  
 被告人カ右賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘキ場合ハ左ノ如シ

(一) 被告人カ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由カ告訴

人告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重過失ニ出テタルトキ

(二) 被告人カ刑ノ言渡ヲ受ケタルモ告訴人告發人又ハ民事原告人ヨリ惡意又  
 ハ重過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタルトキ

(三) 民事原告人カ上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキ

右要價ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ其裁判所即チ刑事裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ  
 得ヘシ刑事裁判所カ之ヲ審判スルハ惡意重過失等ヲ見ルニ最モ適當ナルヘシ  
 然レトモ被告人カ訴ヲ受ケ被告人トマテ取調ヲ受ケ居ル間ニ告訴人告發人等  
 ニ對シ損害賠償ノ訴ヲ爲スハ實際上甚タ困難ナルカ故ニ實際ニ於テ此等ノ訴  
 アルコトハ稀ナル所ナリ

次ニ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ刑事檢察裁判所書記執達吏司法警察官又ハ  
 巡查憲兵等ニ對シテハ要價ノ訴ヲ爲スコトヲ許ササルモノトス何トナレハ此  
 等ノ官吏ニ對シ要價ノ訴ヲ爲スコトヲ許ストキハ此等ノ官吏ハ結局被告人カ  
 無罪ノ判決ヲ受ケンコトヲ恐レ容易ニ犯罪ヲ檢察セサルニ至ルヘケレハナリ  
 然レトモ若シ是等ノ官吏カ被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ或ハ刑法上ノ

罪ヲ犯シタルトキハ要價ノ訴ヲ爲スコトヲ許ササルヘカラス  
以下期間ノコトニ付テ講述スヘシ  
期間ニ關スルコトハ刑事訴訟法第十五條乃至第十七條ヲ觀レハ一目瞭然タラ  
ン期間ハ最モ正確ニ之ヲ計算スルコトヲ要スヘシ而シテ日ヲ以テ定メタル期  
間ニ付テハ初日ヲ算入セス是レ蓋シ初日ナルモノハ完全ナル一日ナラサルヲ  
以テ當事者ノ爲メ不利益ナルヲ以テナリ然レトモ終リノ日ニ至テハ實際夜ノ  
十二時ニ至ルマテヲ計算セサルヘカラス又最終ノ日カ休暇ニ當ルトキハ期間  
ニ算入セサルモノトス何トナレハ休暇ニ當ルトキハ裁判所及ヒ其他ノ官廳ハ  
公務ヲ執ラサルカ爲メ訴訟關係人ハ其手續ヲ盡ス能ハサルヲ以テナリ但シ時  
效ニ付テハ初日モ算入シ又終リノ日カ休暇ナルモノ之ヲ算入スルモノトス是レ  
當事者ノ利益ニ歸スルヲ以テナリ  
又期間計算ニ就テハ海陸路八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與フルコトトセリ而シテ八  
里ニ滿タサルモ三里以上ナルトキハ一日ノ猶豫ヲ與フルコトトセリ猶豫期間  
ノ外又茲ニ附加期間ナルモノアリ是ハ島嶼又ハ外國ニ在ル者ノ爲メ裁判所

カ定ムル所ノ期間ニシテ其算定ニ付テハ裁判所ニ一任セラレタルモノナルヲ  
以テ裁判所ハ隨意ニ之ヲ定ムルコトヲ得ヘシ  
不拘東者カ控訴又ハ上告ヲ爲サントスルトキハ對席判決ニ對シテハ住所ヨリ  
ノ猶豫期間ヲ與フルノ理由ナシ何トナレハ對席判決ノ場合ニ在リテハ其者カ  
公廷ニ出頭シ居リシコト明カナレハ猶豫期間ヲ與フルノ必要ナキヲ以テナリ  
期間經過後ニ於テハ當事者ハ訴訟ヲ爲スノ權利ヲ喪失スヘシ例ヘハ上訴期間  
ヲ經過シタルトキハ上訴權ヲ失フカ如シ然レトモ天災其他避クヘカラサル事  
變ノ爲メ上訴期間ヲ失ヒタルトキハ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ許セリ該申  
立ハ障礙ノ止ミタル日ヨリ通常ノ期間内ニ其疏明ヲ爲シ申立書ヲ上訴狀ニ添  
ヘ差出スヘシ此場合ニ於テハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ(第二  
四七條第二四八條)  
訴訟關係人ハ裁判所所在ノ地ニ假住所ナルモノヲ選定スルコトヲ要ス是レ急  
速ヲ要スル刑事事件ヲ延滞セシメサルカ爲メナリ而シテ假住所ヲ定メサル者  
ハ假令書類ノ送達ナシト雖モ異議ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス

茲ニ一ノ疑問アリ开ハ假住所ヲ選定シタルトキ又ハ之ヲ選定スルコトヲ意リ  
 タル者ニ對シテハ前述ノ猶豫期間ハ之ヲ與ヘサルヤ否ヤト云フニ在リ  
 刑事ニ關スル書類ノ送達ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ハサルヘカラス是レ刑事訴  
 訟法第十九條ノ規定スル所ナリ

以下刑事ニ關スル書類作製ノコトニ付テ講述スヘシ

刑事訴訟法第二十條ニ云ク官吏公吏ノ作ルヘキ書類ハ其所屬官署公署ノ印ヲ  
 用キ年月日及ヒ場所ヲ記載セテ署名捺印シ毎葉ニ契印スヘシ若シ官署公署ノ  
 印ヲ用ユルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載スヘシ此規定ニ背キタル  
 トキハ其書類ノ効ナカルヘシト右官署公署ノ印ヲ捺捺セシムルハ偽造變造ヲ  
 豫防シ書類ノ信憑力ヲ確實ナラシムル爲メニシテ年月日ヲ記載セシムルハ官  
 吏公吏カ當時其資格ヲ有スルコトヲ證明シ免官退職等ノ後ニ至リ書類ヲ作製  
 スル等ノ弊ナカラシメ又場所ヲ記載セシムルハ官吏公吏ノ管轄内ニ於テ作製  
 シタルコトヲ證明スル爲メナリ又毎葉ニ契印ヲ爲サシムルハ書類ノ紙ヲ摺替  
 フルコトヲ豫防スルカ爲メナリ而シテ此規定ニ違背シタルトキハ其制裁トシ

テ書類ハ全部無効ニ屬スルモノナリ右ノ規定ハ實際ニ於テハ最も必要ノ規定  
 ニシテ之ヲ爲メ判決ノ取消又ハ破毀ト爲ルコト渺カラス判決原本ニ右違背ノ  
 廉アレハ其判決ハ無効ト爲リ公判始末書ニ右違背ノ廉アルトキハ裁判所カ果  
 シテ法式ヲ履行シテ判決ヲ爲シタルヤ否ヤ識別シ難キヲ以テ其判決ハ從テ無  
 効ニ屬スヘク又起訴狀ニ右違背ノ廉アレハ起訴ハ無効ニ屬シ其公訴ハ不受  
 タルヘク豫審調書ニ右違背ノ廉アリテ其調書ヲ證據ニ採リタルトキハ違法ノ  
 調書ヲ證據ニ供シタル判決ナルヲ以テ其判決ハ取消ヲ免レザルヘシ然レトモ  
 豫審決定書ニ右違法ノ廉アリト雖モ判決ハ取消スニハ及ハサルモノナリ何ト  
 ナレハ豫審決定ハ已ニ確定シタルヲ以テ其違法ハ公判ノ判決ニ對シ何等ノ影  
 響ナキヲ以テナリ

右規定ハ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ作製スヘキ書類ニノミ適用スル所ノ規定ニ  
 シテ其他ノ書類ニハ之ヲ適用スルニ及ハス故ニ巡查ノ報告書官吏ノ告發書等  
 ヲ作製スルニハ右規定ニ從フニ及ハサルモノトス

刑事訴訟法第二十條第二項ニ云ク官吏公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニハ本人

自ラ署名捺印ス可シ同第二十一條ノ二ニ云ク「官吏公吏ニ非ナル者署名捺印ス  
 (キ場合ニ於テ捺印スルコト能ハサルトキハ署名ノミヲ爲シ署名スルコト能  
 ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシメ捺印ノミヲ爲シ若シ署名捺印スルコト  
 能ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシム可シ立會人ハ其代署ノ事由ヲ記載シ  
 テ署名シ又ハ署名捺印スヘシ官吏公吏ノ面前ニ於テハ本人署名スルコト能ハ  
 サル場合ト雖モ立會人ヲ要セス官吏公吏代署シテ其事由ヲ附記スヘシ」トアリ  
 テ右ハ官吏公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニ關スル規定ニシテ別ニ講述スヘ  
 キ點アルコトナシ又實際ニ於テモ問題ト爲ルヘキ廉アルコトナシ唯捺印トア  
 ルハ元ト實印ヲ押捺スルノ意ナルヘキモ我邦從來ノ慣例ニ從ヒ捺印ヲ實印ニ  
 代用スルコトヲ許セリ明治十四年司法省達第十六號ニ云ク「從來ノ慣例ニヨリ  
 捺印爲致候儀ト心得ヘシ云」ト又大審院ノ判決例ニ於テモ捺印ヲ以テ實印ニ  
 代用スルコトハ認ムル所タリ

刑事訴訟法第二十一條ニ曰ク「官吏公吏訴訟ニ關スル書類ノ原本正本又ハ謄本ヲ  
 作ルニ付キ文字ヲ改竄ス可カラス若シ挿入削除及ヒ欄外ノ記入アルトキハ之  
 アラスシテ共同團體タル國家ナリ國內ニ於ケル統治者タル人ニ如何ノ變動ア  
 ルモ國家ノ權利義務ハ常ニ同一ナリ嘗テ佛蘭西共和國カ團體ノ變更セルコト  
 ヲ理由トシテ以前ニ負フタル國際上ノ義務ヲ免レントセシモ他國ヨリ法律違  
 反トシテ斥ケラレタリ

若シ領地團體ナル國家カ人格ヲ有セス隨テ統治權ノ主格ニアラスト爲ストキ  
 ハ數多ノ理會スヘカラサル點ヲ生スヘシ例ヘハ彼ノ身上連合ノ如キ同一ノ君  
 上ヲ數ク數國ハ之ヲ數個ノ獨立セル國家ト理會スルハ甚タ難カルヘシ人民共  
 同團體ヲ單位ノ人格トセス君主ヲ以テ統治權ノ主格ト爲シ人民共同體ハ統治  
 者ノ下ニ一集合致セル目的物ナリト爲ストキハ目的物タル人民ノ集合體ハ集  
 合體其物ノミヲ以テ獨立ノ單位ヲ形成スルヲ得ス隨テ一國家ヲ組織スル能ハサ  
 ルカ故ニ此數團體ハ唯一君主ノ統治權ノ目的物ト爲リ了リ到底數個ノ國家  
 アリト爲スヲ得サルニ至ルヘシ或ハ此場合ニ其同一君主ハ甲國ノ統治權ノ主  
 格タル資格ト乙國ノ統治權ノ主格タル資格ト二個ノ資格ヲ有ストノ說ヲ立ツル  
 モノアルヤモ知ルヘカラスト雖モ一人ニシテ同種類ノ二個ノ異ナル人格ヲ有



シ一人ノ發表シタル意思カ或ハ甲ノ人格ノ作用ト爲リ或ハ乙ノ人格ノ意思作用ト爲ルトキハ如何シテ之ヲ區別シ得ルカ反對者ハ或ハ意思發表者ノ主觀的決定ニ依ルヘシト言ハシ然レトモ結局雙方ノ人格ノ作用ヲ爲ス意思ハ同一人ノ意思ニ歸スルヲ以テ此兩國ハ一國ト爲ルト云フヨリ外ナカルヘシ然ルニ身上連合ハ唯偶然同一ノ君主ヲ戴クニ止マリ決シテ之ヲ爲メ一個ノ國家ト爲ルモノニアラサルコトハ國家法上及ヒ國際法上ニ於テ少シモ異論ナキ所ナリ若シ此場合ニ於テ君主ノ發表スル意思ハ同一ノ人ノ意思ニ外ナラサレトモ其甲ナル國土人民ノ爲メニ發表セハ甲ナル國家ノ意思作用ト爲リ乙ナル國土人民ノ爲メニ發表セハ乙ナル國家ノ意思作用ト爲ルト云フ者アラハ則チ是レ人民共同團體ノ獨立セル單位ノ人格ナルコトヲ認ムルニアラスンハ之ヲ主張シ得サルヘシ何トナレハ是レ君主ノ發表セル意思作用ノ甲タリ乙タル性質ヲ定ムルモノハ單ニ君主ノ意思ヲ標準トスルニアラスシテ人民共同團體其物カ之ヲ決スル目標ト爲レハナリ若シ此ノ如ク君主ノ身上ニ依リ連合セル數個ハ其同一ノ君主ヲ戴クニ拘ラス之ヲ各殊ナル國家ナリトスルヲ得ルトセハ則チ其國家ハ

三人ノ君主ニ關セス各其國家ヲ形成スル土地ヲ基トセル人類ノミニテ一人ノ共同團體タル人格ヲ爲スモノト云ハサルヘカラス此團體カ互ニ獨立シテ存在スルヲ以テ君主ハ同一ナルモ之ヲ兩國ト爲スヲ得ルナリ等シク同一ノ君主ノ行フ國權ノ作用ニシテ一ハ甲國ノ作用ト爲リ一ハ乙國ノ作用ト爲ルハ國權ノ主體ノ異ナルニ由ラスンハアラス夫レ此ノ如ク一國ニハ各其固有ノ國權アリテ此國權ハ共同團體ノ爲メニ行フモノナリトセハ則チ此國權ノ主格ハ反テ共同團體其者ナリト推測スルヲ正理ト信スルナリ

又共同團體タル國家ノ人格ヲ認メス君主タル一個人ヲ以テ統治權ノ主體ト爲ストキハ國家意思ノ永續シテ效力アル所以ノ理即チ君主交代ノ際等ニ於テ前君主ノ行ヒタル國權ノ作用ノ後ノ君主ノ世ニ於テ當然效力アル所以ノ理ヲ説明スル能ハサルヘシ前君主ノ發表シタル意思ハ後ノ君主ノ世ニ至リテハ其後ノ君主ノ發表シタル意思ニアラサルヲ以テ既ニ之ヲ君主ノ意思ト云フ能ハサルヘク前君主ノ發表シタル意思ハ前君主存在ノ間ニ限り效力アルノミニシテ前君主崩御セハ其發表シタル意思亦存在ヲ失フニ至ルヘケレハナリ此説明モ

付テハ支配者説ヲ採ルモ者ハ大ニ苦心セリ故ニ「ザイデル」氏ハ「君主トハ統治ヲ爲ス一個人ヲ指シテ云フニアラス抽象的ノ統治人格ヲ指シテ云フナリ君主モ之ヲ一ノ制度トシテ觀ルトキハ永久不變ノモノナリ故ニ實際ノ支配者ハ時時交代スルモ其國權作用ノ效力ハ此交代ニ因リ影響ヲ受クルモノニアラス」ト云ヘリ然レトモ「ザイデル」氏ノ本來ノ説ヨリスレハ斯ル説明ハ少シク矛盾ニ陥ルニアラサルヤヲ疑ハサルヲ得ス蓋シ「ザイデル」氏ハ共同團體タル國家ヲ國權ノ主體ト爲スハ一ノ擬制ニシテ採ルニ足ラス何トナレハ國家ハ自然人ニアラサルヲ以テ意思ヲ有スルモノニアラサレハナリ凡ソ意思ヲ有スル者ハ實際上自然人ナリ故ニ統治ノ意思ヲ發スルモノハ自然人ニシテ此自然人カ即チ統治權ノ主體ナリト云ヘリ若シ實際上統治ノ意思ヲ發スル自然人カ統治權ノ主體ナリトセハ此自然人タル統治權ノ主體ノ外ニ尙ホ抽象的ノ統治權ノ主體ナル者ハ存シ得ヘカラサルノ理ナリ然ルニ君主トハ個個人ヲ云フニアラス抽象的ノ人格ヲ指シタルナリト云フハ矛盾ニアラスシテ何ソ「ザイデル」氏ノ所謂統治人格タル君主ナルモノモ亦擬制ナルノミ然ルニ共同團體タル國家ヲ統治ス

ノ主體ト爲スヲ擬制ナリトシテ排斥スルハ何故ソ  
又「ザイデル」氏ハ統治者ハ其責務ノ性質上自己ノ爲メニ統治スルモノニアラス國家ノ爲メニ統治スルモノナリ自己ノ一個人ノ利益ヲ達スル爲メニ統治スルモノニアラス國家ノ利益ヲ達スル爲メニ統治スルモノナリト云ヘリ是レ「ザイデル」氏カ固ヨリ君主ノ政治上ノ性質ヲ述ヘタルモノニシテ法律上ノ性質ヲ述ヘタルモノニハアラサルヘキヲ以テ此言ヲ以テ直チニ攻撃ノ材料ト爲スヲ得サレトモ然レトモ若シ君主ニシテ自己ノ利益ヲ達スル爲メニ統治スルモノナラハ「臣」君主カ統治權ノ主體ナリト云フヲ得ヘキモ今然ラスシテ君主ハ自己ノ利益ヲ達スル爲メニ統治スルニアラスシテ國家ノ爲メニ統治スルコト果シテ政治上ノ真理ナラハ何故ニ統治權ノ主體ハ國家ニアラサルヤヲ疑ハサルヲ得サルナリ吾人ノ採用スル目的觀察法ニ從フモ固ヨリ統治ノ意思ヲ發表スル個個人ノ君主ハ之ヲ單位ノモノト看ルコトヲ得然レトモ之カ爲メニ團體ハ人格タル性質ヲ有セストハ決シテ云フヲ得サルナリ「グマイエル」氏ハ「國權ヲ執行スル個個人ノ自然人ハ常ニ變換スレトモ國權ノ永續ハ決シテ之カ爲メニ防ケラルルモノニアラス

又國家ノ組織ヲ全ク變更シテ共和國ヲ君主國ト爲スモ君主國ヲ共和國ト爲スモ國權ハ常ニ依然トシテ存在スルナリト云ヘリ是レ正當ノ說ナリ故ニ例ヘハザイデル氏ノ本國ナル「バイエルン」國ニ於テ適法ノ形式ヲ屢ニ憲法ヲ改正シ君主ノ位置ヲ變更スルモ之カ爲メニ「バイエルン」ノ國家カ消滅シタリト云フヲ得ス支那ノ如キ佛蘭西ノ如キ朝廷又ハ國體ニ屢ニ變動アルモ法律上ハ國家ノ消滅ト爲スコトナク常ニ同一ノ國家トシテ取扱ハルルナリ故ニ人民共同團體タル國家カ單位ノ人格トシテ存在スルコトハ略ホ之ヲ理會シ得ヘシ

又「ボルンハック」氏ハ國家ト君主トハ全ク同一ノ觀念ニシテ君主ハ即チ國家ナリ故ニ君主崩御スレハ國家モ亦消滅スト云ハサルヘカラサルニ似タリト雖モ法律ヲ以テ定メタル君位繼承ニ因リ君主ノ崩御アレハ「前」君主ハ直チニ其位置ヲ充タスヲ以テ自然人タル君主ハ崩御スルモ國家タル君主ハ人間ノ如ク死亡スルコトナシ新君主ハ決シテ新ナル人格ヲ得ルモノニアラスシテ前人格ヲ繼承スルモノナリ故ニ前君主モ新君主モ同一ノ國家ニシテ前君主ノ發表シタル意思ハ又直チニ新君主ノ自己ノ意思タルナリ隨テ一タヒ君主ノ發表シタル意思ハ永續

スルモノナリト云ヘリ

此說ニ對シテハ二個ノ非難ヲ挿ムコトヲ得ヘシ此說ニ君位繼承ニ因リ初君主ハ前君主ノ人格ヲ受繼クモノナリト云フモ是レ適當ノ說ナルヤヲ疑ハサルヲ得ス今日國法學上ノ說明ニ於テハ君位繼承權ハ親族法上ノ相續權トハ全ク異ナルモノニシテ現今ノ君位繼承ニ於テハ從來ノ君主ノ崩御ニ因リ其崩御セタル君主ノ權利カ新君主ニ移轉スルモノニアラス即チ前君主ノ權利ヲ相續スルモノニアラスシテ唯法律ヲ以テ豫メ定メラレタル一定ノ人カ法律ニ依リテ直接ニ君主ノ位ニ即キ得ルニ過キサルモノナルコトハ殆ト異論ナキ所ナリ若シ君位繼承權ニシテ親族法上ノ相續權ト同一ノ性質ヲ有セハ新君主ハ前君主ノ人格ヲ受繼スルモノナリト云フコトヲ得ヘキモ苟モ君位繼承ハ其性質上唯一定ノ人カ直接ニ法律ニ基キ君位ヲ踏ムモノナル以上ハ之ヲ以テ直チニ前後君主ノ人格ノ繼續セルモノト視ルヲ得サルナリ若シ又「ボルンハック」氏ノ意ハ「前後君主ノ同一人格タル所以ハ君位繼承法ナル法律ニ依リ新君主ハ前君主ノ人格ヲ受繼スルモノト視ルニ由ルト云フニ在ラハ更ニ循環論法ノ誤謬ニ陥リタ

ルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ前君主ノ發シタル君主繼承法ナルモノハ其崩御後ニ於テモ猶ホ効力アル所以ノ理ヲ明カニスルヲ得スハ前後君主ノ同一人格ナルコトヲ主張シ得サルナリ然ルニ今前後君主ハ君位繼承法ニ依リ同一人格ト視ルヲ得ルヲ以テ其前君主ノ發シタル意思即チ君位繼承法ハ繼續スト云フニ在ルヲ以テナリ抑モ君位繼承法ハ前後君主ノ同一人格ナルコトヲ規定スルモノニアラスシテ唯君主ヲ繼承スヘキ人ノ範圍及ヒ順序ヲ定メタルモノナルニ過キサルナリ此繼承法ニ從フテ繼承シタル者ノ前後同一主體ニシテ且ツ前君主ノ發シタル意思ノ後ノ君主ノ代ニ當ルマテ永續シテ効力ヲ有スル所以ハ蓋シ此個個ノ君主ハ共同團體ナル永久單位ノ爲メニ作用スルモノニシテ其發表シタル意思ハ即チ團體ノ意思タルニ因リ苟モ團體ノ存在スル以上ハ個個ノ君主ノ更代ニ關セス其意思モ永續シテ存在スル所以ニ由ラズンハアラサルナリ

以上領地團體ハ人格ヲ有スルモノナルコトヲ述ヘタリ故ニ市町村ノ如キ地方團體モ亦聯邦國單一國等モ總テ人格ヲ有ス國家内ニ在ル市町村等ノ領地團

體カ人格ヲ有シ得ヘキコトハ疑ナキ所ナレトモ國家ナル領地團體ハ如何ニシテ人格ヲ有スルニ至リタルヤハ尙ホ説明ヲ要スル所タリ蓋シ人格トハ法律上ノ權利義務ノ能力者ヲ云フモノナルヲ以テ今國家ハ人格ヲ有スト爲ストキハ國家成立以前既ニ法律ノ存在スト爲テナルヘカラス似タリ然レトモ國家成立以前法律ノ存在スト云フコトハ到底之ヲ理會スルコト能ハサルナリ「フーゴーグロチス」カント等ノ契約說又ハ自然法說ニ從ヘハ法律ハ國家以前ニ存在シタルモノト爲スモノノ如シ即チ人民アレハ茲ニ法律モ自然ニ存シ權利モ自然ニ存スルモノナリ人民ハ此法律ニ基キテ法律行爲ヲ爲シ國家ヲ立テタリ故ニ國家ハ唯法律ヲ執行シ權利ヲ保護スル爲メニ立テラレタル營設施物ナリトセリ近時「モール」ブルンチエリ」ノ如キ亦此說ニ其基ヲ採レリ此說ハ政治上ノ理論トシテハ或ハ眞理ナルヤモ知ルヘカラスト雖モ法律上ノ議論トシテハ適當ノ說ナラサルコトハ今日何人モ爭ハサル所ナリ

此說ニ對シ一方ノ學者ハルレル「ザイデル」「ゾオルン」等ハ曰ク國家アリテ然ル後ニ法生ス國家ハ事實上ノ現象物ナリ法ハ國家ノ命令ニ由リテ生ス即チ法ハ統治

者カ被統治者相互間ノ行爲ノ規則ヲ定メタルモノナリト此說ニ云フ如ク固ヨリ法ノ多數ノ場合ハ被統治者相互間ノ行爲ノ規則ナリト云フヲ得ヘシ然レトモ法全般ノ説明トシテハ適當ノ說ト云フヲ得サルナリ此說ニ從フトキハ國際法國家法等ノ公法ハ總テ法ノ性質ヲ失フニ至ルヘシ何トナレハ國際法ハ國家相互間ノ關係ヲ規定シ國家法ハ國家ノ臣民ニ對スル關係ヲ規定シタルモノニシテ被統治者相互間ノ行爲ノ規定ヲ定メタルモノニアラサルヲ以テナリ尤モザイデル氏ノ如キハ國家ノ人格ヲ認メスシテ國家ハ全ク統治ノ目的物ナリト爲セルモ其統治者タル君主ヲ以テ法ノ上ニ在ル事實上ノ現象物ト爲スハ即チ此論者ト異ナルコトナシ若シ此ノ如ク國家又ハ統治者タル君主ヲ以テ法ノ上ニ在ル即チ法ノ外ニ在ル事實上ノ現象トセハ宜シク之ヲ法學上ノ説明ノ外ニ置クヘキナリ何トナレハ法學ハ唯法律上ノ現象ヲ説明スルモノナレハナリ若シ統治者ノ權力ハ純然タル事實上ノ權力タルコト恰モ所有者カ其所有物ニ對シ主人カ其奴隸ニ對スルト同一ノ關係タラハ所有物カ所有者ニ對シテ法律上ノ服從ノ義務ナク奴隸カ主人ニ對シテ法律上ノ服從ノ義務ナキト同シク臣民モ

亦國家ニ對シ服從スル法律上ノ義務ナカルヘシ何トナレハ所有者ト所有物及ヒ主人ト奴隸トハ法律關係ニ立タサル如ク統治者ト臣民モ亦法律關係ニ立タサルモノト云ハサルヘカラサレハナリ然レトモ臣民カ國家又ハ君主ニ對シ國法上法律上ノ關係ニ立ツモノナルコトハ何人モ異論ナカルヘシ若シ臣民ハ統治者ニ對シ全ク法律上ノ關係ニ立タスト謂ハハ却テ可ナルモ今然ラズシテ臣民ハ法律上ノ人格トシテ事實上ノ現象物ニ對シテ權利ヲ有シ又ハ義務ヲ負フトハ到底理會スヘカラサルコトナリ若シ國家ト臣民トノ間ニ法律上ノ關係存シテハ正當ナルヤモ知ルヘカラズ然レトモ法律上ノ説明トシテ國家又ハ君主アリテ然ル後法アリトハ事實上歴史上ノ説明トシテハ適當ナルヤモ知ルヘカラズ然レトモ法律上ノ説明トシテ國家又ハ君主アリテ然ル後法アリト爲シ統治者ハ法ノ上ニ在リ法ノ外ニ在リ其權力ヲ法ニ因リテ有セス自己固有ノ權力ニ依リテ支配スルモノナリトスルトキハ從來ノ統治者タル君主ノ崩御セル場合ニ其後ヲ繼クヘキ者ハ何人ナルヤヲ知ル能ハサルヘシ何トナレハ君主ハ法ノ外ニ存スル事實上ノ現象物ナルヲ以テ君位繼承

法ナル法律ヲ標準トシテ君位繼承者ヲ定ムルヲ得サルヲ以テナリ若シ纂奪者アリテ君位ヲ奪フモ直チニ正當ノ君主タルヘシ我國ニ於テモ萬世一系ノ系統ニ出テタルニアラサルモ實際ノ權力ヲ以テ支配スル者アラハ即チ前チニ正當ノ君主ナリト云ハサルヘカラス「ザイデル」ノ如キハ君權無制限說ヲ主張セント欲シテ其實ハ纂奪者ヲモ保護スルニ至ルヘキ弊ニ陥ルコトヲ悟ラサルモノナリ「國家ト法トノ關係ニ付キ「ギルケー」「プロイス」等ノ說ハ大ニ參照スヘキ價值アリトス曰ク法カ前ニ在ルカ國家カ前ニ在ルカノ問題ヲ提出スルコト抑モ誤レリ斯ル問題ハ到底之ヲ解スヘカラサルコト猶ホ人間カ家族ノ前ニ在ルカ又ハ家族カ人間ノ前ニ在ルカノ問題ニ於ケルト同シ斯ル問題ハ宜シク之ヲ博物學者等ニ一任スヘシ法學者カ斯ル問題ヲ研究スルハ畢竟其研究ノ範圍ヲ知ラサルニ坐スルノミ國家ノ觀念ト法ノ觀念トハ同時ニ發生シ互ニ發達進歩シ以テ今日ノ現狀ニ及ヒタルナリ國家ト法トハ人間共同生活ニ於ケル二個ノ獨立セル要件ニシテ互ニ相伴フテ發達シタルモノナレトモ然レトモ決シテ此兩者ハ原因結果ノ關係ニ立ツモノニアラス固ヨリ國家ナケレハ法ヲ理會スルコト能ハ

ス法ナケレハ國家ヲ理會スルヲ得スト雖モ然レトモ兩者ノ中何レカノ一方カ他ノ一方ヨリ以前ニ成立シタルコトナシ法ノ前ニ國家アリト云フハ法ノ發表ノ形式ト法ノ觀念トヲ混同スルニ因ル國家ノ前ニ法アリト云フハ國家發表ノ形式ト國家ノ觀念トヲ混同スルニ因ル國家及ヒ法ノ觀念ノ本質ト其觀念發表ノ形式トヲ混同スルカ故ニ斯ル問題ヲ生スルニ至ルナリ凡ソ此世界ニ二個以上ノ人存在スルヤ否ヤ意思範圍ノ制限ハ必要のニ生ス意思範圍ノ制限生スレバ則チ法ノ觀念ヲ生ス又人間各個人ヲ包括スル團體即チ親族起レハ則チ國家ノ觀念ヲ生ス而シテ國家觀念ノ發達ハ益々國家ヲ完全ニシタリ故ニ親族發達シテ國家ト爲リ道德宗教發達シテ法ト爲リタリ國家カ其立法作用ニ依リ法律ヲ制定スルモ唯其實質ノ法ノ觀念トシテ存在スルモノヲ形式的ニ宣言スルニ過キサルナリト

若シ法及ヒ國家ノ實質上ノ成立ヲ歴史的ニ研究セハ此等ノ說明ハ實ニ適當ノ說ナルヘシ然レトモ親族ヲ以テ直チニ國家トスルヲ得ス又宗教道德等ヲ以テ直チニ法ト爲スヲ得サルヲ以テ法理ノ形式上ノ説明トシテハ直チニ之ヲ採用

「スルヲ得サルナリ然レトモ國家ノ觀念ト法ノ觀念トハ同時ニ生ヰタリトノ説ハ法理ノ形式上ノ説明ニ於テモ却テ之ヲ真理ト認メサルヲ得サルナリ  
 「ギルケ」等ノ云ノ如ク國家ナクンハ法獨リ存在スト云フヲ得ス國家ナキ所ニ法アルコトナシ然レトモ又一方ニハ法律上國家ハ何ナリヤト云フ間ニ對シテハ法ノ存在ナクンハ之カ説明ヲ爲スヲ得ス是レ新ニ起リタル國家ニ就キ觀察スルトキハ最モ解シ易シ例ハハ獨逸帝國ニ就テ云ヘハ獨逸帝國ナル國家ノ存在スル前ニ獨逸帝國ノ憲法ナルモノ存在スルコトナシ然レトモ憲法ノ存在スルナクンハ獨逸帝國ナル國家モ亦法律上存在セタルモノト説明スルヲ得ス故ニ國家アラスンハ憲法アルコトナク憲法アラスンハ國家アルコトナク國家ト憲法トハ同時ニ法律上ノ存在ヲ有スルモノニテ前後時ヲ異ニシテ存在セ得ス隨テ國家ノ創立ト憲法ノ制定トハ同時ニ同一ノ行爲ニ因リテ生シタルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ法學者ハ國家創立ノ行爲ト第一ノ憲法制定ノ行爲トハ一ノ事實トシテ之ヲ前提セサルヘカラス事實ハ歴史のニハ説明シ得ルモ法理的ニ説述スルヲ得ス

此法理上ノ真理ハ古來ヨリ存セル國ニ於テモ異ナルコトナシ國家最初ノ起點ハ事實上ノ現象ナリ事實上國家成立スルヤ亦必要のニ國家ノ秩序生ス國家ノ秩序ハ最初ハ全ク事實上ノ上下關係ナリ其後國家狀態ノ堅固ト爲リ文明ノ進歩スルニ隨ヒ此秩序ハ國家内部必要ノ慣習ト爲リ遂ニ法ト爲リタルナリ近世ニ於テハ之ヲ成文ノ法ニ裝飾シテ憲法法典ト爲スニ至レリ故ニ最初ノ事實上ノ關係ハ其成立存在ノ久シキ遂ニ慣習ト爲リ法ト爲ルニ至リ茲ニ始メテ事實上ノ國家モ法律上ノ存在ヲ有スルニ至リタリ

國家ハ事實上無限ノ權力ヲ有ス故ニ又其動作ノ範圍ヲ自ラ定ムルコトヲ得國家カ自ラ其動作ノ範圍ヲ定ムルヲ得ルハ寧ロ其權力當然ノ效果ト云フヘシ若シ自定スル能ハスンハ反テ權力者ト云フ能ハサルヘシ國家ハ自定ノ能力ヲ有スルカ故ニ又自ラ制限スルノ能力ヲ有ス即チ其意思範圍ヲ制限スルヲ得國家ハ從來ノ事實上ノ秩序ヲ認メ又ハ新ニ法ヲ發シテ機關ノ組織權限及ヒ意思發表ノ形式ヲ定ム此形式ヲ履ムニアラスンハ一個人ノ意思ノ範圍内ニ侵入セサルコトヲ定メ又一個人ノ意思ノ範圍ヲ與ヘ其權利ヲ制定シ以テ其人格ヲ認メ國

家ノ權力ノ境界ヲ制限セテ自己ニ義務ヲ負ヒ個個ノ場合ニ拘束ヲ受クルヲ得又外國ト交互ノ權利義務ノ關係ニ立チテ其人格ヲ認メ以テ國際法ノ組合ニ加入シテ其意思ヲ制限スルヲ得ルナリ

國家ハ固ヨリ最初ハ無限ノ權力ヲ有シタルモノナルヲ以テ人間生活ノ總テノ方面ヲ潛働的ニ支配スルコトヲ得ヘシ然レトモ國家カ唯潛働的ニ權力ヲ有スルノミニテハ未ダ他ノ人民ニ對シ法律關係ヲ生スルコトナシ國家ト他人格トノ間ニ法律關係ノ生スルハ唯國家ノ現働的ニ其權力ヲ制限スルヨリ生ス國家カ現働的ニ自ラ其意思範圍ヲ制限スルニ由リ自然ノ能力ヲ法律上ノ能力ニ變シ無限ノ權力ヲ有スル意思ヲ法律上他ノ人格ニ對シ制限セラレタル意思ニ變シ而シテ國家自ラハ一人ノ人格ト爲リタルナリ國家カ自ラ其權力ヲ制限シタル意思ハ即チ法ト爲リ此法ヲ發スルヤ即チ自己ノ權力ヲ制限シタルナリ法ハ他ノ人格ニ對シテハ創設的ノ作用ヲ爲スモノナレトモ國家ノ人格ニ對シテハ制限的ノ作用ヲ爲スニ過キス此ノ如ク國家ノ人格ヲ有スルニ至リタルハ或ハ從來ノ秩序ヲ習慣法トシテ其儘認ムルニ因ルアリ(多クノ君主國ノ如キ即チ然

リ)或ハ殊ニ法ヲ發シ同時ニ國家モ亦生スルコトアリテ一様ナラスト雖モ近世ノ國家ノ狀態ニ於テハ多クハ完全ナル人格ヲ有スルニ至リタルナリ

國家カ法規ヲ以テ自己ニ科シタル制限ニ依リ國家ハ他ノ人格ニ對シ法律上ノ意義ニ於ケル權利義務ノ主格ト爲リタルナリ若シ一モ制限ヲ負フコトナクシテ唯作用スルノミノモノナラハ是レ事實上ノ權力者タルニ過キスシテ權利主格タルニアラサルナリ凡ソ法ニハ其性質上必ス制限ノ要素ヲ含ムモノナリ國民カ權利義務ノ主格トシテ一個人ニ對立シテ一個人モ亦權利義務ノ主格タルヲ得茲ニ始メテ國家ト一個人トノ間ニ法律關係ヲ生シ得ヘキナリ故ニ最初事實上ノ權力ヲ有スル國家カ法律上ノ人格ヲ有スルニ至ルハ其權力ヲ自ラ制限スルトキニ於テス

國家ハ其實力ヲ自ラ制限シテ人格ト爲リタル故又自ラ其制限ヲ解除セテ元來ノ實力者ニ復歸スルコトヲ得ヘシ國家ノ機關ハ同盟罷工ヲ爲シテ憲法ヲ破壞シ法規ヲ遵守セス人民ノ權利ヲ蹂躪スルヲ得ヘシ然レトモ是レ唯事實上爲シ得ルト云フニ過キスレテ現行ノ法律上ニ於テハ違法ノ行爲タルコトハ固ヨリ



論ナキ所ナリ又人民モ革命ヲ企テテ政府ヲ顛覆スルコトヲ得ヘシ然レトモ是レ唯事實上爲シ得ルト云フニ過キヌシテ法律上ハ固ヨリ違法ノコトナリトス若シ國家ハ其法律上ノ制限ヲ全ク破壊シテ事實上ノ權力者ニ復歸スルニ至リタルトキハ此時ハ既ニ無法律ト爲リタルトキナルヲ以テ此時代ノ國家ニ就テハ法律上ノ説明ヲ爲スヲ得サルナリ

國家ハ法律ニ拘束セラルルヤ否ヤニ付テハ尙ホ多少ノ説明ヲ要スル所タリ抑モ最高者ハ法律ニ拘束セラルルコトナセトハ既ニ羅馬ニ於テ認メテラレタル原則ナリシ凡テ舊キ學者ハ多クハ主權者ハ其自ラ發シタル法律ニ因リ拘束セラルルコトナシトセリ殊ニ專制國ニ於テハ主權者ト各一個人トノ間ニハ法律關係存在スルコトナシトセリ主權說ヲ主唱シタル佛國ノボウダンモ主權ハ決シテ拘束ヲ受ケストシ「ボブス」モ國權ハ絕對無制限トシ「ルソー」モ主權ノ自制限ヲ認メヌ獨逸ノ自然法學者中ニモ國權ハ拘束ヲ受クルコトナシトスル學者多シ又近世ノ法律哲學者中「スタール」ノ如キモ立法者ハ其自己ノ發シタル法律ニ因リ拘束セラルルコトナシトセリ

然レトモ他ノ一方ニハ國權ハ人民ノ爲メニ實行セラルルモノトノ思想ハ早クヨリ發生シタリ又國權ハ形式上無制限ナルモ實質上ハ制限ヲ受テ國權ハ形式的隨意ニ執行スルヲ得ルモ道德上ハ隨意ニ之ヲ執行スルヲ得ストノ考起リ又道德上ノ制限ノミナラス法律上ニモ國權ノ境界ニハ一定アリトノ思想ヲ生シタリ而シテ實際上ニ於テモ初ニハ積極的ニ法律上ノ制限ヲ爲スコトナカリシモ慣習ニ因リ其境界ハ稍々一定セラルルコトニ爲レリ或ハ全ク私法上ノ原則ヲ以テ國權掌握者ハ人民ニ對シテ爲シタル約束ニ因リテ拘束セラルルコトト爲シ君主カ憲法ヲ欽定スルハ君主ト臣民トノ間ニ契約ヲ取結ヒタルモノト爲セルモノモアリタリ

獨逸ノ法律哲學者中ニモ國家ハ其本質上制限アリト云フ思想ハ夙ニ生シ此思想ハ「トマシェーヌ」(ウョルフ)以來始終獨逸人ノ腦髓ヲ支配シタリ

羅馬法ノ大家「イリニグ」モ國家自制限說ヲ唱フル一人ナリ氏曰ク法律ノ發達ハ三時期ヲ經過シテ以テ今日ノ狀態ニ移レリ即チ第一時代ニ於テハ各個ノ場合ニ命令ヲ發シテ唯其場合ノミニ適用シ之ヲ終レハ其命令モ亦消滅スルコトト

爲セリ第二ノ時代ニ於テハ一方ニミ拘束力ヲ有スル法規ヲ發シタル時代ナリ此法規ハ數多ノ場合ニ適用スル規則ニシテ國家ハ之ニ依リテ臣民一方ニミ義務ヲ負擔セシメタリ第三ノ時代ハ法規ヲ發シタル國家モ亦此法規ニ拘束セラルルノ時代ナリ此順序ヲ經過シ來リテ始メテ法律適用ニ關シ國權ノ隨意ノ行動ヲ驅逐スルヲ得ルニ至リタルナリ

國家カ一タヒ意思發表ノ形式ヲ定メ以テ將來準據ス可キ規則ヲ定メタル以上ハ國家ハ此規則ノ遵守ニ隨意ナリト云フヲ得ス凡ソ法律ハ直接又ハ間接ニ國家意思ノ實質範圍ヲ定メタルモノト云フコトヲ得ヘシ私法的關係ニ關スル法律ヲ出シタルトキハ則チ此法律ノ下ニ歸スヘキ諸關係ハ總テ此法律ニ依リテ裁判スヘキコトヲ規定セリ以テ司法權ニ制限ヲ附シタルナリ故ニ裁判ヲ隨意ニ下スコトヲ許ササルナリ若シ國家ハ法律ニ對シ隨意ナリト云フヲ得ハ臣民間ノ權利義務ノ關係ノ如キモ亦一定ノ存在ヲ有スト云フ能ハサルニ至ルヘシ然レトモ意思ハ何故ニ義務ヲ負ヒ得ルヤハ法學者ノ説明シ得サル所ナリ法學者ハ唯意思ハ義務ヲ負ヒ得ルコトヲ前提トシテ説明セザルヲ得ス意思カ義務

ヲ負フ形式上ノ原因ハ唯義務ヲ負フ意思行爲ニ存スト云フヨリ外ナキナリ國家カ自主獨立ノ決定ニ因リ其意思ニ恒久ノ力ヲ附シ以テ將來ノ現象ニ對シ一定ノ標準ヲ與ヘタル以上ハ其意思ノ一定ノ效力ヲ有スヘキコトハ寧ロ獨立ノ意思作用當然ノ結果ニアラスヤ

又アポル氏ハ國家カ立法權ノ主格トシテ作用スルトキハ制限ヲ受ケス唯行政權ノ主格トシテ作用スル時ノミ制限ヲ受クト言フト雖モ是レ唯三權分立說ヲ採リテ立法權ノ主格ト行政權ノ主格ト其主格全ク相異ナルモノナリト云フ竝ノ立テ得ヘキトキニ於テノミ生シ得ヘキ說ナリ然レトモ今日ニ於テハ三權分立說ノ誤謬ニシテ國權ハ單一ナリ國家ハ單位ナルコトハ何人モ疑ハサル所ニシテ行政權ノ主格モ立法權ノ主格モ等シク同一ノ國家ナルヲ以テ若シ行政作用ニ制限ヲ受クト云ヘハ即チ國家ハ制限ヲ受クルコトト爲ルヘシ且ツ立法權ト雖モ全ク無限ヲ受ケサルニアラス立法權ハ固ヨリ法律ヲ變更スルコトヲ得ヘシ然レトモ法律ヲ變更スルニハ亦一定ノ形式ヲ履マサルヘカラス此形式ハ即チ立法者ヲ拘束ス固ヨリ立法者ハ此形式ヲモ亦變更スルヲ得ヘシ然レトモ

從前ノ形式ノ存スル間ハ此形式ニ反シテ法律ヲ發シタルトキハ其立法作用ハ  
違法ノ作用ナリト謂ハサルヘカラス殊ニ立憲政體ニ於テハ必ス一定ノ形式ヲ  
以テ立法ノ作用ヲ爲スヘキコトヲ原則トセルヲ以テ形式ハ常ニ必要ニ存セ  
サルヲ得サルナリ

領地團體ハ人格ヲ有スルコト既ニ述ヘタル所ノ如シ凡ソ人権ヲ權利主格ハ  
其諸般ノ作用ヲ惹起ス意思ヲ有スルコトヲ要ス今團體ヲ權利主格ナリトスル  
モ固ヨリ自然人ニアラス而シテ總テノ意思ハ其實自然人ニアラサルハ之ヲ發  
表スル能ハサル故團體ハ全ク意思無能力者ノ如ク見ユ團體ハ如何シテ其意思  
ヲ得ルヤ團體ノ爲メニ意思ヲ發表スル者ハ團體ヲ代理スル者ナルヤ國家ノ意思  
ハ其實自然人タル一個人ノ意思ニ外ナラスシテ一個人ハ法規ニ基キ團體ノ爲メ  
ニ發表スルニ過キサルヲ以テ團體ニ意思アリト云フモ擬制ニハアラサルカノ  
疑ヲ生ス然レトモ法理上ニテハ決シテ然ラサルナリ抑モ共同團體カ多數人類  
ノ集合體タルニ拘ラス之ヲ單位ト視ルコトヲ得ル所以ハ其單一ノ目的ヲ共同  
ノ力ニ依リテ達スルヲ以テナリ既ニ目的ニ依リテ集合體ヲ單位ト認メタル以

上ハ苟モ此目的ヲ達スル爲メニ發表セラルル意思作用ハ亦直接ニ其單位固有  
ノ意思ト着サルヘカラス既三人ノ思想上多數ヲ單位ト理解スルヲ得ハ其目的  
ヲ達スル爲メニ發表セラルル意思モ亦必要ニ其單位ノ意思ト着サルヘカラス  
故ニ多數人ノ集合ヲ單位トスルヲ以テ擬制ニアラストセハ此單位ノ目的ノ爲メ  
ニ發表シタル意思ヲ單位ノ意思トスルモ決シテ之ヲ擬制ト爲スヲ得サルナリ  
固ヨリ純然タル自然ノ觀察ニ依ラハ多數ヲ單位トスルモ其多數ノ目的ノ爲  
メニ發表セル意思ヲ單位ノ意思トスルモ擬制ナリ然レトモ爾カ云フトキハ法  
律上ノ事ハ總テ擬制ト爲ルヘシ

共同團體ノ一員カ團體ノ目的ノ爲メニ發表シタル意思ハ觀察ノ種類ニ隨ヒ二種  
ノ性質ヲ有スルモノト云フコトヲ得即チ自然界ニ於テハ唯自然人ノ意思アル  
ノミ法理上ニ於テハ唯共同團體ノ意思アルノミ此第二ノ場合ニ於テハ意思ヲ  
發表スル自然人ハ團體ノ意思機關タルナリ此意思機關ハ共同團體ヲ代理スル  
モノニアラス彼ノ意思能力者カ他人ヲ代理スル如ク代理スルニアラスシテ意  
思機關ハ即チ共同團體共者トシテ其意思ヲ發表スルモノナリ團體ノ一員ノ作

用ハ全部ノ作用タルナリ猶ホ人ノ見又ハ附ク作用ト同シ見聞ノ作用ハ耳目ノ作用ナレトモ同時ニ其人全體ノ作用ナリ代理人ト被代理人トハ二個ノ異ナリタル人格ナリ團體ト機關トハ互ニ獨立シタル別個ノモノニアラスシテ機關ハ即チ團體ヲ組織スル一要素ナリ故ニ代理人ト機關ト異ナル所ハ機關ハ其屬スル共同團體ノ關節員タルニ反シ代理人ハ被代理人ト全ク特別ナル人格タル點ニ在リ

以上領地團體殊ニ國家ハ人格ヲ有スルコトヲ述ヘタリ此ノ如ク國家ヲ君主タル一個人ト全ク特別ナル權利主格トスルコトハ古代ノ希臘羅馬ノ學者ノ既ニ唱ヘタル所ナリ唯此觀念ハ中古ノ日耳曼時代ニ於テハ中絶シタルヲ見ルナリ中古ノ日耳曼時代ニ於テハ一種固有ノ觀念行ハレ總テ法律關係ハ一個人ト一個人トノ關係ナリ即チ共同團體タル國家ハ權利ノ主格ニアラスシテ一個人タル君主カ權利ノ主格タリ君主ハ人民各個人ニ對シテ權利義務ノ關係ニ立ツモノトセリ而シテ君主ト一個人トノ關係ハ總テ私法上ノ原則ヲ以テ之ヲ支配セリ之ニ反シ中古ノ伊太利ノ學者ハ國家ヲ獨立ノ人格トスル古代ノ思想

ル統治權ノ勳ニ關スル規定ナリト考フ此ノ如ク二者ハ區別ヲ得レトモ亦互ニ密着ノ關係ヲ有スルモノナリト云フヘシ

### 第三 行政法ト刑法訴訟法ノ關係

此等ノモノノ間ニ於テモ勿論密接ナル關係ヲ有ス行政法規ヲ維持スルカ爲メニ刑法訴訟法等ノ力ヲ借ラサルヘカラサル場合多シ又此種類ノ法ヲ適用スル爲メニ行政ノ力ヲ借リテ之カ準備ヲ爲シ又執行ヲ全カラシムル場合アリ要ルニ行政ノ目的ノ爲メニ此等ノ法ヲ要スル點カ行政法ニ於テ説クヘキ所ナリ然レトモ今日ノ現行法ニ於テハ刑事ノ如キハ總テ司法裁判所ニテ司ルカ故ニ行政法ノ講義ニ於テハ之ヲ説カス隨テ之ニ關スル訴訟法モ亦同シ

茲ニ一言スヘキハ司法行政事務ノコトナリ司法行政事務ハ司法權ノ補助ヲ爲スコトカ其大部分ヲ占ム例ヘハ犯罪人ノ搜索刑ノ執行ノ如シ此等ハ一面ヨリ觀レハ行政ノ目的ヲ達スル爲メニ爲スカ如ク見ユルモ又一面ニ於テハ單ニ司法權行使ノ準備タリ補助タルカ如シ此等ノ事務ノ外ニ在テ司法制度ヲ大體ニ於テ維持スル所ノ働キ即チ裁判所ヲ設立シ又ハ其管轄ヲ定ムルカ如キハ行政

事務トシテ説クヘキモノナルヘシ終リニ此司法行政事務ノ中ニ恩赦復讐等ニ關スル權限アリ此ノ如キモノハ君主ノ大權執行ノ補助機關トシテ働ク場合ニシテ行政法ニ於テ説クヘキモノニアラスト信ス

## 第四 私法ト行政法ノ關係

行政法ハ公法ノ一部ナリト云フ以上ハ私法トノ區別ハ既ニ明カナルリ如シ然レトモ前述ノ如ク公法ノ觀念ハ學者ニ由リ區區ニシテ隨テ行政法ト私法トノ關係ニ付テモ亦議論アリ例ヘハ或學者ノ如キハ所謂行政法ノ一部ハ私法ナリト云フ獨逸ノ「ラ・バンド」ノ如キモ此種ノ論者ナリ爰ニ「ラ・バンド」説ヲ少シク述ヘンニ氏ハ素ト「ゲルメル」ト共ニ公法ノ元祖トモ云ハルル人ナレトモ公法ノ觀念ニ付テハ未タ十分ナラサル所アルモノノ如ク考ヘラ「ラ・バンド」ハ公法ト國法トヲ同一視セリ曰ク國法ト云フハ國カ統治權ヲ行フニ付テ自ラ其行爲ニ制限ヲ置クヨリシテ生スルモノナリ夫ノ君主專制時代ノ如キ場合ニ在テハ統治權ノ行使ニ付キ別段ノ規則ヲ設ケス自分勝手ニ働キシ有様ナリシモ今日ハ之ニ異ナリ國權ヲ行フニハ自ラ一定ノ規則アリテ縱令君主ト雖モ之ニ從ハサルヘカ

ラス是レ即チ近世法治國ト名クルモノノ原則ニシテ此ノ如キ法ヲ總稱シテ國法ト云フ此國法ヲ除キテ他ニ特別ナル行政法ナルモノアルニアラス素ト行政ト云フハ國家ノ目的ヲ達スルカ爲メニ法規ノ範圍内ニ於ケル自由活動ヲ云フ自由活動ナルカ故ニ固ヨリ特定ノ規則アルヘキ理ナシ若シ實際此ノ如キ規則アリトセハ是レ例外ナリ然ルニ驟テ實際ノ有様ヲ見レハ行政行爲カ準確スヘキ法規少カラズ今此等ノ法規ヲ分析スレハ結局ニツト爲ル第一ノモノハ國法ニシテ即チ國權行使ノ規則是ナリ第二ノモノハ國家カ國權ヲ行フ場合ニアラスシテ他ノ法律主體ト同一ノ地位ニ立ツトキノ規定即チ私法ナリ其他ハ刑法ト訴訟法是ナリ故ニ此行政上ノ法規ト稱スルハ畢竟スルニ此二種ノ混合物ニ過キスシテ特ニ行政法理ヲ組成スル所ノ行政法規ト云フモノナシ例ヘハ彼ノ郵便電信鐵道等ノ官業山林土木等ノ事務ノ如キハ皆普通私法ノ適用セラルルモノナリ若シ之ニ關シテ特ニ法規ヲ定メ得ルヘシトスルモ是レ私法ノ變形ニ過キス唯此等ノ事業ニ付テ時ニ一私人ノ權利ヲ制限シテ國家カ專ラ行フ所ノ權利ヲ有スル場合アリ此私人ノ權利ヲ制限スルト云フ働ハ國權ノ作用ニシテ

即チ國法ノ範圍ナリト此議論ニ依レハ行政法ナルモノハ各種ノ法規ノ集合物ニシテ特別ニ行政法規ヲ組成スル所ノモノナシ隨テ行政法學モ亦存在ヲ失フコトト爲ルヘシ此種類ノ學者ノ中ニ於テ甚シキハ土地公用徵收ヲ以テ私法上ノ賣買ノ一種ニシテ強制賣買トモ云フヘシト曰ヒ又官吏ノ任命ノ如キニ至テハ民法上ノ雇傭ト同一ノ性質ナリト論ス然レトモ此觀念ノ誤リナルコトハ明カニシテ土地ノ公用徵收ハ命令權ノ働キニシテ普通ノ賣買ノ如ク當事者ノ自由意思ニ因ルモノニアラス然ラハ何故ニ賠償ヲ與フルカト云フニ是レ決シテ賣買ノ場合ノ對價ト同一視スル能ハス賣買ノ場合ニハ對價ハ一ノ要件ナリ然ルニ公用徵收ノ場合ニハ賠償ハ要件ニアラス國家ハ賠償ヲ與ヘスシテ公用ノ爲メニ必要ナルニ於テハ徵收スルコトモ爲シ得ヘキモノニシテ唯現行法規ノ問題トシテ賠償カ徵收ニ伴フト云フニ止マル且ツ賠償額ノ如キハ被徵收者ノ意思ニ依リ定マルモノニアラス故ニ賣買ノ對價ト異ナレリ

次ニ官吏ノ任命ニ付テモ任命ト云フ働ハ合意ニ因ルモノナレトモ私法上ノ雇傭ノ如クニ一定ノ勞役ヲ供スレハ足レリト云フ性質ノモノニアラス官吏ハ

國家ニ對シテ特別ノ服從關係ヲ負フテ絕對的ニ國ニ盡スノ義務アリ即チ職務ニ對シテ必要アレハ一身ヲ捧ケサルヘカラサルノ義務アリ此ノ如キ關係ヲ目的トセル任命ハ普通ノ雇傭ト同一視スル能ハサルハ明カナルヘシト信ス

以上述ヘタル學者ノ說ハ甚タ穩當ナラス予ハ前述ノ如ク公法ハ統治ヲ目的トスル關係ノ法ニシテ私法トハ全ク區別セラルルモノナリトシ公法ノ中ニ於テ直接ニ國家公共ノ安寧幸福ヲ目的トシ機關ヲ通シテ統治權ノ發動スル關係ノ法ヲ指シテ行政法ト云フ故ニ私法ト行政法トハ全ク範圍ヲ異ニス「ラバン」例ニ於テ郵便電信鐵道ノ事業ノ如キハ一人ニ關係シテ各個ノ行爲ヲ別別ニ分離スレハ私法上ノ關係ト異ナル所ナキカ如シト雖モ國家カ之ニ因リテ交通ノ便利ヲ圖リ且ツ財政上ノ收入ヲ得テ國費ヲ支辨セントスルハ畢竟統治ノ目的ニ出ツルニ外ナラス故ニ公法關係ナリト云フ所以ナリ一人カ此等ノ事ト類似ノ働キヲ爲ス場合ニハ其利益カ目的ト爲リテ國家カ此等ノ事業ヲ爲ス場合トハ根據ヲ異ニス「キルヘンハイム」ノ說ハ予ノ持論ト多少類似セルカ故ニ茲ニ略述セシ

氏ハ論シテ曰ク行政法ノ一部ハ私法ナリヤ否ヤハ疑問ナリ何トナレハ行政事務ノ中ニテ一般私法ノ規定ニ從テ行動セサルヘカラスルモノアリ例ヘハ鐵道郵便等ノ事務ノ如シ然ラハ此等ハ私法關係ナルヤト云フニ然ラス要スルニ此等ノ事務ニ關シテモ單ニ一部局ニ偏シテ觀察ヲ下スヘカラス行政法全體ヨリ着目セサルヘカラス全體ヨリ之ヲ觀ルトキハ總テ統治ノ關係ナリ國家ハ此場合ニ一私人ト對等ノモノニアラス故ニ此行政ノ一部分ニシテ私法ヨリ岐レ又ハ私法ニ基ク如ク見ユルモノアレトモ是レ純粹ノ私法ニアラス結局全體ヨリ觀察スレハ統治關係タリ此點ヨリ氏ハ行政法ヲ別チテ第一國權ノ行使ニ關スル規則第二私法ヨリ岐レ又ハ私法ニ基クル規定第三刑法上ノ規則トセリ

以上ハ行政法ト私法ノ關係ニシテ議論ノ必要ヨリ公法ト私法ノ關係ニマテ論及セリ而シテ行政法ノ法律上果シテ如何ナル地位ニ在ルヤヲ説ケリ

### 第三章 行政法規ノ性質

抑モ國家命令權ノ働ハ大別シテ二ト爲スコトヲ得即チ法規ヲ設クルコト及ヒ處分スルコト是ナリ行政ノ範圍ニ於テモ仍ホ此二ツヲ含ム外國學者ノ行政權ハ處分權ナリトノ說ハ我國法上取ルヘカラスル所以ハ既ニ述ヘタリ法規ニ成文法規ト不文法規ノ二アリ或學者ハ公法ノ範圍内ニハ習慣法ナシト論セリ然レトモ實際國法ノ大原則ニシテ單ニ習慣法ナルモノ尠カラス夫ノ英國ノ如キ國法ノ大部分ハ不文法ナリ故ニ此說ニ從ヘハ英國ニハ殆ト國法ナシト云ハサルヘカラス且ツ此議論ヲ爲ス者ハ何故ニ私法ノ範圍ニハ習慣法ヲ認メナカラ公法ニ於テハ之ヲ認メサルカ其論據明カナラス蓋シ是レ獨逸學者ノ說ニ基キシモノナラン蓋シ獨逸ノ主義ニ依レハ法ハ總テ國民ノ意思ナリト爲ス而シテ習慣法ハ國民ノ意思カ直チニ發表シタルモノニシテ成文法ノ如ク或國家ノ行爲ヲ待チテ始メテ法ト爲ルモノニアラス故ニ公法ノ範圍ニ於テ習慣法ヲ認ムレハ國家ハ自己ノ意思ニ因ラスシテ其行爲ヲ束縛セラルルニ至ル是レ國家ノ性質ニ反スル所ノ論決ニシテ要スルニ國家ヨリ上ニ更ニ強キ權力者ヲ認ムルモノナリ故ニ結局公法ノ範圍ニテ習慣法ヲ認ムル能ハスト云ヘリ然レトモ獨逸

ノ國民意思說ノ精神ヲ探クレハ固ヨリ國民ノ意思ヲ以テ最強力者ト爲シ歸スル所國民ノ意思即チ國家ノ意思ナリト爲セリ其證據ハ獨逸普通學者ノ國家ニ關スル觀念ヲ觀ルニ國家トハ一定ノ土地ノ上ニ治者被治者ノ關係ヲ有スル人類ノ秩序ノ團體ヲ指スモノニシテ結局國民ノ集合體ヲ以テ國家ト看做シ國民ト國家ト同一ニ歸スルヲ以テ前ノ論者ノ議論ハ其當ヲ得ス而シテ習慣法カ公法ノ範圍内ニ於テ成立シ得ルノ論結ト爲ルヘシ但シ獨逸流ノ國民ニ關スル觀念カ正確ナルヤ否ヤハ別問題ナリ

次ニ法規トハ如何ナルモノナリヤ法規ノ性質ニ關スル問題ノ中心點トモ云フヘキハ法規ハ一般ノ規定ナルコトヲ要スルカ或ハ特別ノ一事件ノ規定モ法規ナルヤ是ナリ獨逸ノ「シルツエー」「レンネー」ノ如キハ法規ハ數多ノ事件ニ共通スルモノナラサルヘカラス特別ノ一事件ヲ規定シタルモノハ法規ニアラスシテ處分令ナリト爲ス然ルニ「ラバンド」等ハ法規トハ或事件ニ或法律上ノ結果ヲ附シタルモノヲ云ヒ必スシモ多數ニ共通ナルコトヲ必要トセス通常法規ハ多數ノ事件ニ共通スレトモ總テ然リト云フコト能ハス而シテ處分トハ法規ノ範

圍内ニ於ケル權利行為ナリト論ス然レトモ「ラバンド」此議論ノミニテハ未タ法規ト處分令ノ區別ヲ明カニスルコト能ハス尙ホ同氏等ノ云フ所ヲ聞クニ法規ト處分令ノ區別ハ新ニ臣民ノ權利義務ヲ定ムルモノナルト然ラサルトノ點ニ在リ即チ處分令ハ法規ノ定メタル範圍内ニ於テ國家ノ權利ヲ實行スルモノニシテ新ニ臣民ノ權利義務ヲ規定スルモノニアラスト云フニ在リ換言スレハ法規ノ定メタル所ノ權利ヲ實在ノ場合ニ行使スルモノハ即チ處分令ナリト爲ス然レトモ國家ノ權利ヲ悉ク法規ヲ規定シ盡スコトハ爲シ能ハサルカ故ニ氏モ亦少シク其說ヲ矯メテ法規ハ國家ノ權利ノ基礎ヲ定ムルモノナレドモ必スシモ細末ノ點マテ法規ヲ以テ定メサルヘカラサルモノニアラスト云ベリ而シテ法規ヲ定ムルコトハ立法權ノ勳ニシテ行政權ハ處分ヲ爲スノ權ナリト爲ス議論ハ前述ノ如ク我國法ニ於テハ採用スルヲ得ス且ツ處分令ハ臣民ノ權利義務ニ容喙スルヲ得スト云フカ如キハ決シテ穩當ナル議論ニアラス此點ニ付キ「ゾオルグマイエル」ハ論シテ曰ク國家ノ行政ノ勳ハ必スシモ一定シタル權利ノ數ヨリ出來上リタルモノニアラス故ニ例ヘハ警察權ノ如キモノハ公共ノ安寧幸福ノ



爲メニ必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ臣民ニ對シテ強制權ヲ用フルコトヲ得レ決シテ法規ニ由リテ生スル權利ニアラス法規ハ唯此點ニ對シテ限界ヲ示スニ止マルノミ國家ハ其性質上初ヨリ臣民ニ對シテ要求權ヲ有ス必スシモ一法規ニ依ルモノニアラスト然レトモ此マイエルノ見解モ未ダ十分ナリト云フヲ得ス何トナレハ法律學ノ觀念ヲ以テ論スレハ絕對的ニ法規ニ依ラサルノ範圍ハ認ムル能ハス例ヘハ警察權カ法令ノ範圍内ニ於テ自由活動ヲ爲スハ其基ク所警察權ニ此ノ如キ勸ヲ認ムル所ノ法規ノ存在スルヲ以テナリ是レ或ハ官制ニ依リ又ハ他ノ成文法規ニ依リテ概括的ニ權限ヲ與フル場合モアルヘク然ラストスルモ尙ホ警察權ニ此ノ如キ勸ヲ許スト云フ國法上ノ原則モ亦一ノ法規ナリト云フコトヲ得ヘケレハナリ

故ニ理論トシテハ總テ法律上ノ勸ハ直接ニ法規ニ依ルカ或ハ間接ニ法規ニ基クモノト云ハサルヘカラス此點ニ於テハ「ラバンド」ノ說寧ロ宜シキヲ得タリト云フヘシ即チ處分ハ總テ其源ヲ法規ニ發スルモノトシテ絕對的ノ自由處分ヲ認メサルハ予ノ贊成スル所ナリ然レトモ唯ラバンドカ人民ノ權利義務ヲ定ムルハ

處分令ヲ以テスル能ハスト斷定シタル點ハ予ノ首肯スル能ハサル所ナリ何トナレハ氏モ認ムル如ク法規ハ必スシモ一ノ場合ヲ規定スルモノニアラズレテ單ニ國家ノ權利ノ基ヲ定ムルハ可ナルヲ以テナリ例ヘハ官制ヲ以テ國家ノ機關ノ權限ヲ定ムルハ一種ノ法規ナリ是ニ依リテ機關カ一一ノ場合ニ人民ノ權利義務ヲ定ムルカ如キハ決シテ法規カ直チニ人民ノ權利義務ヲ定メタルモノト云フコト能ハス即チ法規ハ單ニ權限ヲ定メタルノミ權限内ニ於テ機關カ便宜人民ノ權利義務ヲ定ムルモノナリ是ヲ以テ間接ニ法規ニ依ルト云ヒ得ラルルモ法規カ直チニ人民ノ權利義務ヲ定メタリト云フコト能ハサルナリ

「ラバンド」「ボルンハツク」ノ如キハ或事實ニ一定ノ法律上ノ結果ヲ付シタルモノハ總テ法規ナリト云フカ故ニ共通ノ事件ノ規定タルト特別ノ事件ニ關スルモノタルトヲ問ハス何レモ法規ナリトノ結論ヲ生ス此ノ如ク廣ク法規ヲ觀察スルヲ以テ前述ノ如ク國家ノ命令權ノ勸ハ「殆ト」皆法規ニ歸シ處分令ハ單ニ法規通リヲ實際ニ行フニ過キスト云フニ至ル之レモ反シテ「マイエル」ハ法規ニ依ラサル絕對的自由處分權ヲ認ムルカ故ニ法規ノ意義ヲ狭ク解スルハ自ラ然

ルヘキノ理ニシテ共通ノ事件ノ規定ノミヲ法規ナリトシ特別ノ事件ニ關スルモノハ總テ處分令ナリトス予ハ前ニ述ヘタル如ク法律學上絕對的ニ法規ニ基カサル行爲ヲ認メス但シ其法規ハ成文ナルト不文ナルト又ハ大體ノ規定ニ基マルト細目マテモ規定スルトヲ問ハス又法律上ノ行爲カ間接ニ法規ニ基クト直接ニ之レニ依ルトヲ問ハス法律上此等ノ行爲ノ根據ハ他マテモ法規ナリト思考ス換言セヘ現行法ヲ基礎トシテ立テタル法律學ハ絕對的ニ法規以外ノ行爲ニハ關係ナキモノトス故ニ「マイエル」ノ觀念モ未タ穩當ナリト云フ能ハス畢竟スルニ予ハ法規トハ共通ノ事件ニ關スル規定ナリトシ而シテ其適用ヲ受クヘキノ所ノ事件ノ範圍ヲ定ムルモノ例ヘハ例外ノ規定ノ如キモ猶ホ法規ノ一部ナリト信ス然ルニ近來一種ノ議論アリ曰ク人類ノ社會ヲ爲スニ當リテハ各人カ多少意思ヲ制限セサル以上ハ決シテ共同生活ヲ爲シ得ルモノニアラス各人カ自己ノ意思ノ發動ニ任ヒテ行動スルトキハ終始其間ニ衝突ヲ生シ社會ノ統一ハ到底望ムヘカラサルニ至ルカ故ニ此意思ヲ制限スルコト必要ナリ此制限ヲ強行スルモノ即チ國權ニシテ此制限即チ法規ナリ故ニ一言ニシテ云ヘハ法

シテ通商ハ個人的ノ事項ニ屬スルニ由リ開戦ハ直チニ民間ノ通商ヲ禁スルノ效力ナク唯國家ノ政略上ヨリ之ヲ禁シ得ヘキノ原因タルニ過キストスルニ在リ然レトモ戰爭ハ交戦國人民ヲ敵人ト爲スニ非ストノ學說カ法理上并ニ實際上價値ヲ有セサルハ既ニ前述ノ如ク又其交通通商ヲ自由トスヘキノ學說ハ獨逸國ニ於テスラ未タ學者ノ一般ニ同意スル所ニ非スシテ之ニ反對ヲ唱フルモノ少カラサルニ由リ未タ以テ現今國際公法ノ法則ト爲スコト能ハス然レトモ戰爭中兩國人民間ニ於ケル害ナキ交通ハ交戦國ニ於テ之ヲ禁スルノ必要ナキニ由リ政府ハ特ニ之ヲ許可スルノ傾向アリ又通商モ自國ノ便宜上公許スルコト少カラスシテ千八百五十四年クリミア戰爭ニ於テハ佛國ハ布告ヲ以テ露國ト電信ノ交通ヲ開キ露國政府ハ政治上ニ關スル人民間ノ發信ハ郵便局ノ之ヲ受クルヲ禁シタルト同時ニ佛露兩國間商業上ノ通信ヲ爲シ得ルコトヲ公認シ英佛兩國ハ封港セサル露國ノ港灣ニ中立國ノ船舶ヲ以テ戰時禁制品以外ノ商業ヲ營ミ得ヘキノコトヲ自國人民ニ許可シ露國モ英佛兩國商品ノ中立國船舶ニ由リ輸入ヲ公認シ千八百六十年阿片戰爭ニ於テハ英佛兩國ハ清國ニ對シ通商ノ公許ヲ宣言

日清戰爭ニ於テモ我國民ノ清國商業ニ從事スルヲ禁セザリシハ其適例ニシ  
 此等ノ場合ニ於テハ交戰國ノ政界上敵國トノ交通通商ヲ其人民ニ禁スルノ必  
 要ナキノミナラス之ヲ禁スルハ却テ不利益ナリシニ由リ國家カ特ニ之ヲ許可  
 シタルニ過キスシテ國際公法ニ於テハ開戦ト共ニ其通商交通ヲ禁スルヲ原  
 則トシタリミヤ戰爭阿片戰爭ニ於テハ英佛兩國ハ明カニ之ヲ許可シ其許可ノ範  
 圍内ニ於テノミ其國民ノ之ニ從事スルヲ許シタルモノニシテ日清戰爭中我國  
 民ノ清國通商ニ從事シタルハ我政府ノ默許ニ出テタルモノト斯法上解釋セザル  
 ヲ得ス之ト同一理由ニ據リ軍隊占領地ニ付テモ國家ノ許可スル場合ニ限リテ  
 ノミ敵國人民ト交通通商ヲ營ミ得ヘク其他敵國ノ一地方ヲ限リ又ハ物品ヲ限  
 リ若クハ會社又ハ一部ノ人民ヲ限リテ之ヲ許可シ時トシテハ其交通通商ノ方  
 法并ニ時間等ニ制限ヲ置キテ之ヲ許スコトナキニ非ス斯ル場合ニ於テハ嚴正  
 ニ其許可ノ條件ヲ守ルニ非サレハ總テ不法タルヘキモノトス  
 前述セル所ハ戰爭開始ノ後ニ於テ交戰國間ニ於ケル交通通商ニ關スル法則ナ  
 リ然レトモ開戦ノ際自國ニ在留スル敵國人民ニ付テハ之ヲ區別セザルヘカヲ

總テ戰爭ノ原則トシテ敵國人ハ互ニ敵ト爲ルニ由リ國際公法上ノ慣例ニ基ク  
 例外ナキ以上ハ國家ハ其人民ニ對シ開戦ト共ニ其保護ヲ拒絕シ得ヘキノミナ  
 ラス之ニ對シ敵意ノ行爲ヲ加ヘ得ヘキヲ以テ開戦ト共ニ自國領内ヨリ敵國人民  
 ヲ追放シ又ハ之ヲ俘虜トシテ拘留スルモ全ク自國ノ自由ニシテ方今ニ於テモ時  
 宜ノ必要上此原理ヲ實行シタル場合ナキニ非ス又中世ニ於テハ此原則ノ履行セ  
 ラレザルシユースモ開戦ニ際シ自國ニ在留ノ敵國人ヲ拘留シ俘虜ト爲シ得ヘ  
 キコトヲ認メ戰爭終了ト共ニ解放スヘキモノト説キタレトモ當時ニ於テスラ  
 敵國商人ニ限リテハ其國ヲ退去セシムル慣例アリテ千二百四十二年ルイ九世  
 ノ英國商人ヲ拘留シタルハ佛國ニ於テスラ之ヲ非難シ英國ハ開戦ニ於テ敵人  
 ハ其財産ヲ取纏メテ退去ノ爲メ四十日ノ時間ヲ與フヘキ法律ヲ發布シ其後佛  
 國モ之ニ倣シ其他諸國ハ條約又ハ內國法ノ規定ニ由リ第十八世紀ノ初ヨリ  
 シテ敵國人ノ自國ニ在留シ來リタル者ヲ俘虜ト爲スノ慣例漸ク消滅シ却テ  
 安全ニ退去セシムルノ機會ヲ與フルコトト爲リ同世紀ノ後半ニ於テ敵人退去  
 ノ爲メ六個月乃至一年ノ猶豫ヲ與フヘキコトヲ諸國ノ條約ヲ以テ定メタルコ

ト十二ニシテ今世紀ニ入りテハ千八百九十年ニ至ルマテ斯ル條約ノ數二十ニ登レリ凡テ開戦ノ際内地ニ於ケル敵國人ヲ退去セシムルコトニ關シ學者ノ説ヲ見ルニ「ベンケル」シヨーク「モ第十七世紀ニ於テ斯ル立退ノ數條約アリタルコトヲ記述シ「エメリゴ」ハ之ヲ以テ國際公法ノ法則ト唱ヘ千七百五十八年「バル」著書ニ於テモ國王ハ戰爭ヲ宣言スルニ當リ敵國人民ヲ拘留スルコト能ハス必ス其退去ニ必要ナル時間ヲ與フヘキモノトシ其理由トスル所ハ當初國內ニ外國人民ノ入り來ルコトヲ許シタルハ暗黙ニ之ニ保護ヲ與ヘ其歸國ニ關シテ安全ヲ保證セタルモノト爲セリ此理由ノ當否ニ付テハ議論アル所ナレトモ最近百五十年間ニ於テ敵人ヲ拘留セタル唯一ノ實例ハ千八百三年英國ノ開戦ニ先チ「アルゲル」海ニ於ケル佛國商船ヲ捕獲シタルヲ以テ佛立「ボレオン」一世ハ佛國領内ニ於ケル十八歳以上六十歳以下ノ英國人民ヲ悉ク逮捕シ千八百十四年マテ拘留シタルノ實例アルニ止マリ此佛國ノ處置タル近世其嚴酷ヲ非難スル者アルニ拘ラス是レ全ク英國ノ不法行爲ニ對シテ復仇ニ出ラタルモノニテ敢テ不可ナキカ如ク之ヲ以テ現行國際公法上開戦ノ際自國在留ノ敵國人

ヲ拘留シ得ヘキ實例ト爲スニ足ラス而シテ前述ノ如ク今世紀ニ於テ其拘留ヲ爲ササルコトヲ諸國ノ條約シタルモノアルハ歐米大國間ニアラスシテ主トシテ南米諸國ニ對シ歐米諸國ノ人民ヲ保護スル目的ニ出ラタルニ過キスシテ南米諸國ハ未ク文明ノ程度ニ於テ歐米諸國ト同一視スル能ハサルカ爲メ豫メ斯ル條約ヲ締結シ置クノ必要アルヲ以テナリ隨テ現今ニ於テハ又戰國間ノ慣例カ開戦ノ際敵國人ノ内地ニ在ル者ヲ拘留セサルヲ以テ國際公法ノ法則ト謂ハサルヲ得ス然レトモ若シ國家ノ豫メ期限ヲ定メ其退去ヲ命セタル場合ニ於テ其時間内ニ退去セサル者又ハ其人民ノ行爲ハ自國ニ不利益ナルトキ若クハ軍人其他敵國ノ有力者ニシテ其歸國スルハ自國ニ害ヲ來スヘキ虞アル者ハ交戰國ニ於テ政界上之ヲ拘置シ又ハ其歸國ヲ禁スルモ妨ケナキ所トス

開戦ニ於テ交戰國カ敵國ヨリ自國人民ヲ召遣シ得ヘキコトハ學者中異論ナク又交戰國カ敵國人民ノ歸國ヲ以テ戰爭ニ關シ自國ノ利益トスルトキハ之ヲ防退シ得ヘキハ前述ノ如シ要スルニ交戰國ハ戰爭ノ利益ヲ得ンカ爲メ必要ナル限リハ何事ヲモ爲シ得ヘキモノトス然レトモ近世ニ於テハ開戦ニ於テ敵國

人民ヲ自國版圖ヨリ退去セシムルノ慣習モ更ニ一變シ國外ニ放逐スルハ非常ノ場合ニ於テノミ之ヲ行ヒ得ヘク特別ノ理由ナキ限りハ其平和善良ノ行爲アル間ハ戰爭中ト雖モ自國ニ在留ヲ許スヲ常トス此慣習ノ生シタルハ實ニ近世ノコトニシテ「バナル」ノ説ク所ニ據ルニ千七百五十六年英佛戰爭中英國ハ自國ニ在留スル佛國人民ニ對シ善良ノ行爲アル者ハ其在留ヲ繼續スルコトヲ許可シ其後千七百六十二年英國ハ西班牙人ニ同一ノ許可ヲ與ヘタルハ開戦ニ際シ敵人ノ在留ヲ許シタル最初ノ實例タリ其後列國ハ條約ヲ以テ同一ノ規定ヲ爲スニ至リ千七百九十五年乃至千八百十年ニ於テ英國及ヒラブラタ國トノ條約ヲ始メトシ歐洲諸國ハ南米諸國ト同一ノ條約ヲ締結シタルモノ少カラズ然レトモ近年ノ戰爭ニ於テ敵國人民ノ在留ヲ許スニ付テハ必ス明カニ之ヲ布告スルヲ常トシ日清戰爭ニ於テモ明治二十七年八月勅令ヲ以テ清國人民ノ善良ノ行爲アル間ハ我國ニ在留ヲ許シタルカ如ク千八百七十年普佛戰爭ニ於テ佛國政府ノ獨逸人民ヲ「セー」地方ヨリ追放シ全然佛國ヲ退去スルカ若クハ「ロア」河ノ南岸ニ退去ヲ命シタルハ稍殘酷ナル處置ト看做サルニ至レリ但シ此佛國ノ處

置ニ付テハ獨逸人民ノ本國軍隊ニ應接セントスルノ行爲アリタルニ由リ巴黎府中ニ其在留ヲ繼續セシムルハ危險ナル恐レヲ生シ政府ハ軍器上ノ必要ニ因リ此手段ヲ取リタルモノニシテ其處置ノ得策ナルヤ否ヤハ別問題トシテ佛國政府ノ行爲ハ漫ニ不法トスルコト能ハス何トナレハ敵國人民ノ在留ヲ許スハ固ヨリ善良ノ行狀アル間ニ限り不法ノ行爲ヲ爲スニ於テハ之ヲ處刑シ又ハ國外ニ放逐シ得ヘク非常ノ場合ニ於テハ多數敵國人民ノ退去ヲ命シ得ヘキノミナラス兵路上ノ必要ニテハ之ヲ追放スルモ決シテ咎ムヘカラサルハ疑ヒナキ所タリ而シテ苟モ敵國人民ノ戰爭中自國ニ在留ヲ許スニ於テハ可成他ノ外國人民ト同一ノ待遇ヲ受クヘキモノニシテ内國人ト商業交通契約等ノ權利ヲ享有セシムヘキモノトス

終リニ注意スヘキハ戰爭中敵國人民ノ自國ニ在留スルニ當リ裁判管轄權ノ問題ナリ此點ニ付キ國際法學者ノ間ニ二種ノ意見アリテ英米兩國ニ於テハ戰爭中敵國人民ニ對シテ裁判所ノ保護ヲ一切拒絕スルヲ原則ト爲スニ由リ敵國人民ハ在留國ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受クルノ權利ナク其身體財產ノ保護ハ全然

行政處分ニ出ラ戰爭中ハ敵國人民并ニ敵國人民ト自國人民若クハ第三國人民間ノ訴訟ハ一切法廷ニ提起スル能ハストシ其他ノ國ニ於テハ裁判管轄ヲ自國在留敵國人ニ及ホスモノ多ク千八百七十七年露土戰爭ニ於テハ露國政府ハ主國人ニ總テ法令ノ保護ノ下ニ在リテ自國ニ在留シ平和職業ニ従事スルヲ許シ日清戰爭ニ於テハ前述ノ勅令第一條ニ於テ「清國人民ハ本令ノ規定スル所ニ從ヒ帝國内從家居住ヲ許サレタル場所ニ於テ身體財產ノ保護ヲ受ケ向後モ引續キ居住シ且其ノ地ニ於テ平和適法ノ職業ニ従事スルコトヲ得但帝國裁判所ノ管轄ニ服從スヘシ」ト規定シ敵國人民ヲ法廷管轄ノ下ニ置ケリ斯ク敵國人ヲ自國ニ在留セシムルニ付テハ法廷ノ保護ヲモ之ニ與フルヲ正當トスヘク國際公法上一般ノ傾向モ亦然リトス然レトモ絶對的ニ之ヲ第三國人民ト全然同一ニ待追スルト否トハ交戰國ノ任意ニシテ政畧又ハ軍略上ノ必要アルニ於テハ其取締ニ付キ如何ナル規則ヲモ施行シ得ヘク前顯ノ我國勅令第二條以下ノ規定ニ於テハ清國人民ヲシテ其任所職業等ヲ地方廳ニ申出テ其登錄ヲ受ケシメ之ニ登錄證書ヲ交付シ其登錄ヲ請ハサル者ハ帝國版圖以外ニ退去セシムルヲ得ヘ

キコトヲ定メ又第六條ニ於テ清國人民ニシテ帝國ノ利益ヲ害スル行爲アル者犯罪ノ所爲アル者秩序ヲ紊亂スル者又ハ以上ノ嫌疑アル者ハ各法令ニ依リテ處分スルノ外府縣知事ハ尙ホ之ヲ帝國版圖以外ニ退去セシムルコトヲ得ヘキヲ規定シ更ニ又開戦後ニ於テ清國人民ノ我國ニ入り來ルニ付テハ第九條ニ於テ内務大臣ノ特許ヲ得タル者ニ限ルコトヲ規定セル如キハ國際公法上非難スル所ナキノミナラス其規定ノ周到ナリト謂ハサルヲ得ス然レトモ此勅令實行中清國人ハ國籍ヲ有スル外國人ナルカ爲メ國籍ナキ外國人トシテ取扱フ能ハストノ理由ヲ以テ課税ヲ免シタルハ其當ヲ得サルカ如何トナレハ從來我國ニ於テ外國人ノ課税ヲ免シタルハ國籍ヲ有スル外國人ナルカ故ニ非ス領事裁判制度ヲ設定シタル條約國民ニ限リタルモノニシテ苟モ法律上ノ保護ヲ與フルニ於テハ之ニ伴フヘキ納税ノ義務ヲ有スルハ勿論ニシテ其免稅ヲ爲セタリシハ敵國人ヲ他ノ外國人ニ比シ不必要且ツ不條理ノ優待ヲ與ヘタルモノト謂ハサルヲ得ス

### 第三款 内地ニ於ケル敵國財産ニ對スル效果

開戦ニ於テ交戰國一方ノ版圖内ニ在ル敵國財産ハ敵國政府ニ屬スルモノト人  
民ニ屬スルモノトノ二種アリ又政府ニ屬スルモノノ中ニモ不動産ト動産ノ區  
別アリ然レトモ政府カ他國ニ於テ不動産ヲ有スルハ總テ私人ノ資格ニ於テ有ス  
ルニ止マリ政府ノ資格ニテ所有スルハ單ニ動産ニ過キス而シテ動産ヲ有スル  
場合ニハ開戦ニ先チ之ヲ敵國ヨリ引上クルニ注意スルモノナレハ實際内地  
ニ於ケル敵國政府ノ財産ニ付テハ問題ト爲ルコト掛ク若シ又開戦後軍艦其他  
ノ官船又ハ財寶若クハ武器彈藥等政府ニ屬スル動産アルニ於テハ總テ沒收シ  
得ヘキモノトス單ニ之ニ例外ト爲ルハ公使館ノ記録書籍圖書美術品ノ如キハ  
戰地ニ於テモ互ニ毀損沒收セサルヲ交戰國ノ義務トスルニ由リ内地ニ在ルト  
キモ亦沒收スヘカラサルハ論ナキ所タリ之ニ反シテ開戦ニ當リ敵國私人ニ屬  
スル財産ノ内地ニ在ルモノ少カラス斯ル財産ニ關シ英國ニ於テハ千二百十五  
年「ジョン王」大憲章ノ規定ニ於テ英國ハ自國ニ在ル敵國人民并ニ其財産ノ取扱

ニ付テハ敵國領内ニ於ケル自國人民及ヒ財産ニ對シ敵國政府ノ所爲ト同一ノ  
處分ヲ爲スヘキコトヲ規定セルニ拘ラス古來英國ノ採リタル方針ハ敵國ノ行  
爲如何ヲ問ハス自國ニ在ル敵國財産ヲ沒收スルヲ常トシ其他歐洲諸國ニ於テモ  
第十八世紀ノ初メニ至ルマテハ開戦ト共ニ自國內ニ在ル敵國人民ノ不動産及ヒ  
動産并ニ之ニ關スル權利ヲ悉ク沒收シ得ヘキモノト爲シ此原則ハ嚴重ニ遵  
用ナレ來リシカ千七百十二年「ユートレクト」條約ニ於テ奧佛蘭及ヒ「ザボイ」國ハ戰  
争ニ於テ沒收シタル不動産ヲ其所有者ニ返還スルノ約定ヲ爲シ同世紀ノ中頃  
ニ於テハ交戰國ハ敵國人民ノ土地家屋等ノ不動産ニシテ自國ニ在ルモノハ其  
收入ヲノミ沒收スル權利アルモノナルコトヲ「バラル」論述スルニ至リ其後敵  
國人民ニ對スル取扱ノ寛大ニ赴キタルト共ニ財産ニ對シテモ敵意ノ行爲ヲ減  
却シ土地ニ付テハ收入ヲノミ沒收シ土地自體ハ沒收セサルノ慣習ヲ生シ此慣  
例ハ十八世紀ノ後半ニ於テ諸國一般ノ法則ト爲リ更ニ戰爭中敵國人民ノ在留  
ヲ許スノ慣例起ルニ及ヒテ其財産ニ付テモ妨害ヲ與ヘサルコトト爲リ今日ニ  
於テハ不動産所有者ノ自國ニ在ルト敵國若クハ中立國ニ在ルトヲ問ハス内地

ニ於ケル人民所有ノ不動産ハ總テ沒收又ハ其利益ヲモ妨害シテナルコトト爲  
 千八百六十一年米國南北戰爭ニ於テ政府ハ南軍ニ屬スル人ノ財産ハ公ノ股  
 券ヲ除クノ外ハ悉ク沒收シタルハ近世ニ於ケル唯一ノ例外ニシテ其行爲ハ  
 酷ニ失シ一般ノ慣習ニ反スルニ由リ戰爭中不動産ノ沒收ハ勿論其收入モ膏  
 收スヘキ權利ハ現今既ニ消滅シタルモノト見ルヘキナリ  
 然レトモ内地ニ於ケル敵國人民ノ動産ニ關シテハ不動産ニ對スル法則ノ寬大  
 ト爲ルニ至リテモ猶ホ之ヲ差押又ハ沒收スルノ法則勵行セラレ第十八世紀ニ  
 於テハ諸國ノ條約ヲ以テ開戦ニ際シ互ニ自國ニ在ル敵國ノ商品ヲ引取ルヘキ  
 時間ヲ定メタルモノ千七百六十六年英露條約ヲ始メトシテ其例夥シキコトナ  
 リシカ商品以外ノ動産ニ付テハ屢々沒收ヲ行ヒタルノミナラス條約ノ存セザ  
 ル場合ニ於テハ少クモ「ナボレオン」戰爭ノ終リニ至ルマテ動産ノ商品ナルト否  
 トニ拘ラス差押又ハ沒收シタルコト少カラス殊ニ英國ニ於テハ開戦ニ於テ  
 敵國ノ負債ヲ沒收スヘカラサルモノト爲シタリシカ自國版圖内ニ在ル船舶商  
 品其他私有財産ヲ差押ヘ沒收シ得ヘキ法則ヲ固執セリ然ルニ千八百五十三年

十月露土戰爭ニ於テ兩國ハ互ニ其港ニ在ル敵國ノ商船ニ立退ノ時間ヲ與ヘ之  
 ヲ差押ヘサルコトト爲シ千八百五十四年クワミヤ戰爭ニ於テ佛國ハ同年三月  
 二十七日ノ勅令ヲ以テ自國領内ヨリ露國船舶ノ退去ニ付キ六週間ノ猶豫ヲ與  
 ヘ尙ホ戰爭開始前露國ヲ出帆シタルモノハ自國港内ニ入りテ其積荷ヲ卸シ又  
 ハ積荷ヲ爲シテ五月九日マテ出港シ得ヘキコトヲ許シ英國モ之ト同一ノ勅  
 令ヲ發シ露國モ亦兩國ノ船舶ニ對シテ同一ノ猶豫ヲ許セリ凡テ開戦ニ於テ敵  
 國人民ノ船舶其他ノ財産ヲ内地ニ於テ沒收スルノ行爲ハ敵國ヨリ掠奪物トシ  
 テ取得スヘキ財産ノ數ヲ増加スル爲メノ行爲ニシテ其他何タル理由ノ存セザ  
 ルカ爲メ一般信用ノ破壞ト看做サレ學者ノ之ヲ非難シタルモノ多キニ拘ラス  
 其差押沒收ヲ行ヒ得ヘキ國家ノ權利ハ果シテ消滅シタルモノナルヤ否ヤ今  
 日猶ホ一問題ニ屬シ千八百二十二年英米戰爭ニ際シテ米國法廷ハ此點ニ付キ判  
 決ヲ下シテ曰ク政府ハ自國領内ニ於ケル敵國ニ屬スル財産并ニ自國港内ニ在  
 ル敵國船舶及ヒ積荷ハ開戦ノ爲メ沒收シ得ヘキ權利ヲ有スルコト疑ナキモ此權  
 利ヲ行フト否トハ全ク國家ノ意思如何ニ在ルニ由リ之ヲ行フヘキ法律ノ發布



ナキ間ハ法廷ニ於テ其沒收ヲ言渡スノ權能ナキモノトシ就中有名ナル列邦ニ  
 トリ」ハ之ニ反對シ別ニ立法府ヨリ法律ヲ發布ヲ待タスシテ敵國ノ財産ヲ沒  
 收シ得ヘキハ國際公法上正當ナル行爲タルコトヲ論セリ然レトモ今日ノ實際ニ  
 於テハ假令其財産ヲ沒收スル權利ノ消滅セザルモノトスルモ其適用ハ寬大ト爲  
 ヲ「ナボレオン」戰爭後之ヲ實行シタルハ單ニ千八百六十一年米國內亂ノ時ニ於  
 テ之ヲ爲シタルノ外其實例ナク方今ニ於テハ管ニ之ヲ沒收セザルノミナラス  
 敵國人民ノ自國ニ在留ヲ許スニ於テハ其財産ヲモ保護シ立退ヲ命スル場合ニ  
 於テモ其財産ヲ取廻メ退去ヲ爲スノ時間ヲ與ヘ船舶ニ關シテハ普通其到達地  
 ニ通ルルニ必要ナル時間ヲ與ヘテ退去セシムルヲ常トシ内地ニ於ケル敵國人  
 民ノ財産ヲ沒收スル法則ハ方今寧ロ陳腐ニ屬シ信用ノ破壞トシテ慣習上許  
 サルニ至リタルモノトス

敵國若クハ其同盟國ノ政府又ハ人民ニ對スル交戦國若クハ其人民ノ負債ニ付キ  
 歐洲古代ノ慣習ハ開戦ト共ニ均シク之ヲ沒收シ得ヘキモノトシ「シセロ」ジロシ  
 ニース「アツフエンドルフ」ペンケルシヨーク等モ其沒收ノ權利ヲ認メタリシカ

「パタル」著書ニ於テハ敵國政府并ニ人民ニ對スル負債ニ關シテハ歐洲中既ニ  
 之ヲ沒收セザル慣習ヲ生シ各國政府ハ此慣習ヲ遵守スヘシトノ確信ヲ以テ貸  
 借ヲ爲シタルニ拘ラス開戦ニ於テ沒收スルハ列國ニ對シ自國ノ信用ヲ破リ  
 タルノ行爲ト看做ササルヲ得スト論シ「エメリゴン」及ヒ「マルチンヌモ同一ノ説  
 ヲ唱ヘ就中政府ノ敵國人民ニ對スル公債ヲ沒收スルハ其國ノ信用ヲ害シ永遠  
 ア不利益ナルノミナラス慣例ニ由リ沒收スヘカラサルコトト爲リ今日ニ於テ  
 「管ニ之ヲ沒收セザルノミナラス戰爭中ト雖モ其約定ニ係ル利子ヲモ支拂フ  
 コトト爲レリ固ヨリ戰爭中ハ其支拂ノ實行ヲ爲ス能ハサルニ因リ平和ニ至リ  
 テ其拂渡ヲ爲スモノトス此問題ニ付キ葛藤ノ生ゼタルハ有名ナル「シレシヤ」負  
 債事件ニシテ千七百二十五年日耳曼皇帝ハ「シレシヤ」州ノ收入ヲ抵當トシテ倫  
 敦商人ヨリ三百萬フランヲ借入レタリ「カカ」千七百四十二年普國王ハ「シレシヤ」  
 ヲ埃國ヨリ割讓ヲ受ケ同州ニ關スル負債ヲ普國ニ於テ負擔スルコトト爲セリ  
 然ルニ千七百四十四年英國ハ佛國及ヒ西國トノ戰爭中佛國ノ積荷ヲ爲シタル  
 普國船舶ヲ捕獲シタルヲ以テ普國政府ハ英國人民ニ對スル「シレシヤ」負債ヲ沒

收セルニ因リ兩國ノ爭議ト爲リ英國政府ハ總テ國家ノ私人ニ對スル負債ヲ沒收スルノ慣例ナキコトヲ論シ之ヲ信用ノ破壞ト爲シ此點ニ付テハ普國政府モ反抗スルコト能ハスニテ其局ヲ結ヒ古來英佛西其他諸國モ一般ニ此法則ニ依リテ行動シ殊ニ英國ニ於テハ開戦ニ際シ海上ニ於ケル敵國財産ヲ沒收スル原則ヲ採リタルニ拘ラス元來商業國ナルヲ以テ交戰國間ノ負債ヲ無效ト爲スニ於テハ自國ノ損害少カラサルニ由リ負債ニ付テハ慣習上沒收スヘカラサルモノト主張シ單ニ戰爭ハ債權ヲ中止シ媾和ト共ニ其效力ヲ回復スルノ說ヲ採レリ千八百七年英國ト丁抹國トノ戰爭ニ於テ開戦ニ先チ英國ハ自國港内并ニ公海ニ於テ丁抹國ノ船舶及ヒ積荷ヲ捕獲シ之ヲ沒收シタルヲ以テ丁抹政府ハ自國人民ノ英國人民ニ對スル負債ヲ悉ク沒收シテ政府ニ納ムヘキ勅令ヲ發シタルニ平和ノ後英國人民ハ丁抹國人タル債務者ニ對シテ起訴シタルニ英國法廷ハ判決シテ曰ク丁抹政府ノ勅令ハ百餘年來列國ノ慣例ニ違反シ國際公法ニ矛盾ストノ理由ヲ以テ其勅令ハ負債請求ニ對スル抗辯ト爲ス能ハストセリ此判決タル學者ノ非難ヲ免レヌ何トナレハ固ヨリ負債ノ沒收ハ國際公法ニ違反ス

ルハ論ナシト雖モ開戦ニ先チ敵國財産ノ沒收モ亦均シク國際公法上許サザル所ニシテ英國ハ丁抹國ノ財産ヲ不法ニ沒收シナカラ丁抹國ノ負債ヲ沒收スル權利ナシトスルハ自家撞着ノ論タルヲ免レザルヲ以テナリ隨テ方今ニ於テハ敵國ノ財産ハ負債ト均シク沒收スヘカラサルコト疑ナク若シ敵國ニ於テ不法ノ行為ヲ爲スニ於テハ復仇手段トシテ敵國ノ財産又ハ負債ニ對シテ差押若クハ沒收ヲ爲シ得ヘキモノナルカ如シ

## 第二章 陸戰ニ於ケル敵國人民ニ對スル權利

### 第一節 總 則

戰爭ニ因リ交戰國版圖内ニ在ル敵國人民及ヒ財産ニ關スル交戰國ノ權利ハ前記ノ如シ而シテ敵地ニ於ケル敵國人民及ヒ財産ニ對シテハ第十八世紀ニ至ルマテノ學者ハ如何ナル行為ヲモ爲シ得ヘク其生命財産ニ對シテ無制限ニ行為ノ自由ヲ原則トシタリシカ社會ノ進歩ト共ニ此原則ハ漸ク其適用ヲ減輕スル道理ヲ生シ其制限の道理ハ遂ニ源流タル原則ノ上ニ效力ヲ有スルコトト爲リ

戰爭ハ素ト政治的ノ爭ニシテ國家ノ互ニ敵國ナルカ故ニ其人民ヲ敵人ト爲スニ止マリ兩國人民間ニ仇怨ノ關係アルモノニ非ス隨テ戰爭ニ適用スヘキ暴力ハ戰爭ヲ惹起シタル政治上ノ目的ヲ達スルニ必要ナル程度ヲ超過スヘカラサルコトト爲リ其程度以外ノ暴力ハ悉ク不法ト看做スニ至レリ隨テ戰爭ハ素ト敵國ヲ攻撃スルニ在ルコトナレトモ必スシモ其人民財産ヲ撲滅スルニ在ラスシテ敵國ノ兵力抵抗ヲ除クヲ其直接ノ目的トセサルヲ得ス何トナレハ敵國ノ我要求ニ應セスシテ戰爭ヲ爲シタル所以ハ敵國ノ兵力抵抗ニ存スルニ在リテ若シ其抵抗ヲ除クニ於テハ敵國ノ我要求ヲ容レサルヲ得サルニ至リ戰爭ノ目的モ自ラ達シ得ルニ至ルヘキヲ以テナリ此理由ニ據リテ交戰國ハ敵國ノ抵抗ヲ除クノ必要上兵器ヲ以テ戰闘ニ從事スル敵人ヲ殺戮セ若クハ俘虜トシ又ハ敵國ノ行動ヲ指揮スル敵人ヲ俘虜ト爲シ得ルト同時ニ兵器ヲ以テ抵抗スル能ハサルカ又ハ抵抗ヲ爲ササル者ヲ殺戮若クハ虐待スルコトヲ得ス一言ヲ以テ蔽ヘハ敵國ノ兵力抵抗ヲ除クノ直接ニシテ必要ナル程度ヲ超エタル暴力ノ使用ハ悉ク不法ト爲スニ至リタルモノトス何トナレハ此等ノ行爲タルヤ敵人ヲ

脅嚇シテ我要求ニ服從セシムル一手段ト爲シ得サルニ非サレトモ是レ全ク我要求ヲ容レシムルノ方法トシテハ寧ロ間接ニ屬スルノミナラス之カ爲メ却テ敵國人民ヲ激怒セシメ一層激烈ナル抵抗ヲ來タスヘキヲ保スヘカラサルニ因リ決シテ確實ナル手段ト看做スヲ得ヘカラサルヲ以テナリ尙ホ此等陸戰ニ於ケル敵國人民ノ權利義務ヲ審ニセンカ爲メ左ノ數節ニ分チテ講述スヘシ

## 第二節 戰闘者

古代ニ於テハ交戰國人民ハ戰闘者ト非戰闘者ノ區別ナク之ヲ殺傷シ又ハ俘虜ト爲シタリシカ戰闘者ヲ一般人民ヨリ區別シテ戰爭ニ從事スヘキ者ニ制限ヲ立テシハ戰爭ヨリ結果スル不必要ナル慘狀ヲ滅却スルモノニシテ羅馬法ニ於テハ斯ル慣例ノ行ハレ兵士ノ宣誓ヲ爲シタル者ノミ戰爭ニ從事スルコトト爲シタリシカ「ビユニーック」戰爭後其法則ノ行ハレサルニ至リ又中世ニ於ケル戰爭ハ最モ殘酷ヲ極メタルヲ以テ固ヨリ戰闘者ト否トノ區別ナキコトナリシカ近世社會ノ進歩ト共ニ此區別ヲ生スルニ至リタルモノニシテ方今ニ於テハ戰

争ニ從事シ得ヘキ者ハ單ニ戰鬪者ニ限リ戰鬪者ノミ兵器ヲ執リテ敵軍ヲ攻撃又ハ之ニ抵抗シ得ヘク非戰鬪者タル交戦國一般人民ハ戰爭ニ從事スヘカラナルコトト爲リ而シテ戰鬪者ハ戰爭行爲ノ結果トシテ殺傷セラルルコトアルト同時ニ敵人ヲ殺傷シ得ヘク又俘虜トセラルルトキハ相當ノ待遇ヲ受ケルカ如キ軍人ノ資格ニ伴フ權利義務ヲ有シ非戰鬪者ハ戰爭中没リニ生命財産ヲ損害セラレサル權利ヲ有スルト共ニ敵軍ニ抵抗スルトキハ直チニ常事犯トシテ處刑セララルル如キ其權利義務ニ付キ戰鬪者ト非戰鬪者ノ間ニ大ナル差異ノ存スルモノトス

戰鬪者ト非戰鬪者ヲ區別スルハ管ニ國家ノ抵抗力并ニ戰爭行爲ニ至大ナル關係ヲ有スルノミナラス戰爭ニ從事スル個人ノ運命ニ於テハ其關係最も大ナルヲ以テ其區別ヲ明確ニスルノ必要アリ然ラハ方今國際公法上戰鬪者ト看做サルヘキモノハ如何ニト云ハハ海陸軍將校常備豫備後備屯田兵又ハ國民軍等荷モ身ヲ軍籍ニ置キ其職務ニ由リテ攻撃又ハ防備スル者ハ勿論臨時募集ノ兵士ト雖モ交戦國ノ法律又ハ命令ニ基キ戰爭ニ從事シ若クハ敵軍ノ侵入ニ際シテ

(In Prussia)ヲ始メトシ多少之ナキニ非スト雖モ概テ警察法ノ研究ハ國法學若クハ行政法學中ニ於テ論究スルヲ常トス是ヨリ先キ三十年前頃マテハ警察學 (die Polizeiwissenschaft)ナル名稱ノ下ニ發行セラレタル著書頗ル多カリシト雖モ自ラ其内容ヲ異ニシ從テ今日ニ所謂警察法ト其意義ヲ異ニセリ

### 第三章 警察ノ沿革

洋ノ東西ヲ問ハス國ノ文野ヲ論セス苟モ國アレハ此ニ警察アリ既ニ警察アリ又之カ沿革ナカルヘカラス本章第二款ハ之ヲ題シテ歐洲警察ト稱スルモ主トシテ獨逸ノ警察ノ沿革ニ係ル是レ獨逸ハ歐洲中殊ニ斯學ノ發達セルモノナルニ由ルナリ

#### 第一節 我邦警察ノ沿革

我邦ニ於テハ法制史ノ研究甚タ疎ナリ從テ古代ニ於ケル警察制度ノ如キモ漢トシテ考フヘカラス木村正幹氏ノ上古司法權論小中村博士ノ警察沿革ノ如キ

稍ヤテ上古警察ノ一斑ヲ探ルニ足ルヘシト雖モ是レ亦主トシテ司法警察ニ過キサルナリ

警察ナル名稱ハ維新後ニ至リ始メテ成立セリ故ニ警察ノ沿革ヲ維新前ノ歴史ニ於テ探究セント欲セハ之ヲ事實ニ依リ判斷セサルヘカラス蓋シ警察ナル黨約ハ危害ヲ警戒シ之ヲ未發ニ察スルノ意ナリト云フ

今我邦警察制度ヲ論スルニ當リテヤ余ハ假ニ之ヲ左ノ五期ニ分タントス

- 第一期 王政時代
- 第二期 鎌倉時代
- 第三期 戰國時代
- 第四期 徳川時代
- 第五期 近世

第一期 王政時代

神武ヨリ推古ニ至ル千二百年間ハ未ダ成文律ノ設ケアラス此間ニ於テハ人民ハ其業ヲ世世ニシ官職モ亦世襲ノ制タリ部落ニハ各之カ長ヲ置キ以テ家長ノ制

ヲ取ル而ヤテ上古ニ於テ武事ヲ掌リタルハ物部大伴部久米部佐伯ノ四氏ナリトス此等ノ武士ハ或ハ内外ノ警衛ヲ爲シ或ハ巡察シテ罪人ヲ捕フル等司法警察ノ職モ彼等ノ掌握スル所ナリキ左レハ此時代ニ於テハ警察ハ全ク軍事ト混同セシモノト云フヘシ

推古ノ時ニ至リ聖德太子ハ始メテ憲法十七條ヲ制定セリ然レトモ是レ所謂徳律タルニ過キサルナリ其第四條ヲ見ルニ群卿百僚禮ヲ以テ本ト爲セト云ヒ第五條ニ於テハ怒ヲ捨テテ争訟ヲ明カニセヨト云フ等此時代ニ於テハ道德ト法律ハ未ダ分化セズ而シテ風俗警察ノ淵源ハ又遠ク此ニ存スト云フヘシ

孝德天皇ハ隋唐ノ制度ヲ摹倣シ所謂大化ノ革新ヲ行ハセラレ此ニ八省百官ヲ設キ又衛門府左右衛士府左右兵衛府ヲ設ケ専ラ警衛ノ事ヲ司ラシム衛門府ハ諸ノ禁衛ヲ司ル左右衛士府ハ宮掖ヲ禁衛シ車駕ノ出入ニ前驅後殿スルコトヲ司ル左右兵衛府ハ間門ヲ禁衛シ車駕ノ出入ニ前後ヲ分衛スルコトヲ掌ル番長兵衛アリ衛門以下ヲ五衛府ト云フ後世改メテ左右近衛府左右衛門府左右兵衛府ト爲シ之ヲ六衛府ト云フ(日本制度通考)則チ是レ後世ニ稱スル近衛兵ニシ

ヲ又所謂皇宮警察ノ事ヲモ兼テ行ヒシモノナリ

彈正蓋ハ唐ノ御史臺ニ倣ヒテ設ケラレ風俗ヲ肅清シ内外ノ非違ヲ糾彈スルノ重職タリ彈正尹ハ親王ヲ任スルヲ例ト爲ス(日本制度通卷)而シテ彈正尹ハ之ヲ勅任トス(令義)親王以下五位以上ノ人ニシテ非行アレハ之カ犯狀ヲ奏聞シ又六位以下ノ人ニ就テハ刑部省或ハ京職ニ通報スルヲ例ト爲ス是レ猶ホ羅馬ニ於テ警察ノ職ハ極メテ之ヲ高位ニ置キセンズル之ヲ掌握シ縱令高貴ノ人ト雖モ公然善良ノ風俗ヲ害シタルトキハ之カ處罰ヲ脫スル能ハサリシカ如シ(アルシテ國法論第二卷)又彈正ノ糾彈其宜ヲ得サルトキハ大臣之ヲ糾彈スルノ權アリ左レハ此時代ニ於テハ既ニ上級官廳ノ下級官廳ヲ監督スルノ制度ハ行ハレタリト云フヘシ

幕武ノ時始メテ諸道ニ鎮撫使ノ置ク鎮撫使ノ職タル諸國ノ兇徒ヲ搜捕シ盜賊妖言ヲ斷シ或ハ國司郡司ノ政ヲ偵察ス其他按撫使巡察使ナル官職アリテ諸國司郡司ノ善惡ヲ檢察ス

當時諸國ノ取締ヲ考察スルニ國毎ニ國司アリ又其下ニ郡司アリ一國人民ハ二

犯罪ヲ爲ス者ハ貧民ニ多クシ富者ニ少シ歐洲各國ノ例ニ依レハ犯罪者中多少ノ資産アリト認ムヘキ所ノ者ハ僅ニ百分ノ八内外ニ過キス

社會ノ進歩ハ權利思想ノ發達ヲ促シ亦官民健訟ノ風漸ク盛ント爲リ小故微罪モ亦忽チ摘發セラレ區區タル私爭モ容易ニ官衙ノ裁定ヲ仰クノ傾向ヲ生シ此ノ如クニシテ終ニ經告偽證封印破毀詐欺破産若クハ從前社會ニ現ハレタリシ種種ナル微細秘密ノ犯罪ノ増加スルニ至ルヲ免レス其他或ハ公益ニ對シ或ハ名譽信用等ニ對スル犯罪ノ増加ヲ見ルカ如キモ是レ亦權利思想發達ノ惡結果タラスンハアラス

「アイフエルト」氏ハ一般社會ニ於ケル法律的智識ノ進歩ヲ以テ近年犯罪増加ノ一原因ヲ爲スモノナリト認メ之ニ關スル種種ノ實例ヲ舉ケテ以テ之ヲ證

明セリ  
社會ノ進歩ハ一般生計ノ程度ヲ高カラシムルノ結果トシテ結婚又ハ子女扶養ノ困難ト爲リ或ハ墮胎或ハ殺兒或ハ委棄或ハ乞丐賣淫等ヲ餘義ナクシ或ハ耽酒奸淫等風俗ニ對スル諸種ノ犯罪ヲ増加セシムルニ至ルヲ免レス

「タローチ氏曰ク世人或ハ犯罪ノ多少ヲ以テ社會道德ノ消長ヲトスルノ標準ト爲ス者アリト雖モ犯罪ノ増加ハ未タ以テ絕對的ニ社會道德ノ衰漸ヲ表示スルニ足ルト應斷スヘカラス何トナレハ文明進歩ストキハ道德秩序及ヒ平和ニ對スル社會ノ感情モ亦一層精密且ツ鋭敏ト爲リ未開時代若クハ文明ノ著ルシク發達セタル時代ニ在リテ普通一般ノ常事トシテ不問ニ付ハ又ハ單ニ惡劇ヲ以テ輕輕ニ看過セシ行爲モ終ニ犯罪ヲ以テ制裁ヲ施スハ必要ヲ促スニ至リタルノ結果トシテ犯罪増加ノ現象ヲ見ルハ止ムヲ得サルノ理ナリト彼ノ悲觀的憂世家ナル者ノ口ヲ開ケハ則チ社會澆季ノ說ヲ唱フルカ如キ抑モ事態ノ真相ヲ明カニセタルノ致ス所ナリト謂ハサルヲ得ス

「フェリー氏ハ犯罪即チ人ノ不正行爲ノ原因ヲ分テテ個人的物質的及ヒ社會的ノ三種ト爲シ此三因相依リ相集リテ所謂犯罪行爲ナルモノヲ生産スヘシト主張シ之ヲ根據トシテ以テ社會犯罪ノ増加スル所以ヲ詳論セリ(千八百九十六年刊行同氏著述第四版ノシヨロヂア、クリミナル) 個人的原因ハ之ヲ細別シテ甲有機的組織ニ基ク原因頭蓋頭腦内臟感動反應

作用等ノ變形及ヒ總テノ身體上ノ特徵例ヘハ相貌文身等ノ類是ナリ(乙) 心理的組織ニ基ク原因意識及ヒ感覺殊ニ道義的感覺ノ變調及ヒ精神の發動行爲ノ異徵例ヘハ暗語、隨筆等ノ類是ナリ(丙) 人格的特質ニ基ク原因入種、年齡男女ノ關係及ヒ社會生理的、ビランシャール諸般ノ事項例ヘハ身分、職業住所教育等はナリ

物質的原因トハ天候地質日時季節、溫度氣壓物産等ノ關係ニ基ク原因ヲ指シテ之ヲ稱ス  
社會的原因トハ人口、輿論風習、宗教、家族生活、教育制度、經濟上及ヒ政治上ノ狀態司法、警察、行政制度、民事及ヒ刑事ニ關スル立法ノ方針等ニ基ク原因ヲ包括シテ之ヲ稱ス

「タルド氏ハ犯罪ノ原因ノ一種トシテ物質的原因ヲ存スルノ必要ナキヲ唱ヘ天候季節、豊凶等ノ如キハ犯罪ト關係ヲ有スルコト極メテ少シ若シ多少ノ影響アリトスルモ是レ間接タルニ過キスシテ直接ノ原因ヲ爲スモノトハ認ムヘカラスト言ヘリ(セルシー氏ハ犯罪ノ原因ヲ別チテ生理的原因及ヒ社會的

原因ノ二種トセリ

「コラヤンニ一氏カ犯罪ハ社會的生產物ナリトノ論本章六頁參看ヲ嚴スルヲ  
 エリー氏ノ所説ニ曰ク此ニ百人ノ同一ノ境遇同一ノ程度ニ生育セシ者アリ  
 ト假定シ内六十人ハ無事ニ經過スルニモ拘ラス二十五人ハ犯罪ニ陥リ五人  
 ハ自殺ヲ遂ケ五人ハ乞食浮浪ノ懶民ト爲リ尙ホ其殘ル五人ノ者ハ精神病ト  
 爲リテ終焉スルノ運命ヲ取ル等ノ差異アル所以ノモノハ何ソヤ又同シク犯  
 罪ニ陥ル二十五人ノ内ニ在リテモ或ハ竊盜或ハ奸淫或ハ詐欺或ハ  
 殺傷或ハ放火ヲ犯ス等ノ差別アル所以ノモノハ何ソヤ又貧苦必スシモ犯罪  
 ノ因タラス富有毫モ缺クル所ナクシテ尙ホ犯罪ヲ敢テスル者アル所以ノモ  
 ノハ何ソヤ犯罪ノ原因ヲ以テ獨リ社會的關係ニ在リト主張セント欲スルノ  
 論者ハ恐ラクハ此等ノ質問ニ對シテ適當ノ解釋ヲ與フルコト能ハサルヘキ  
 ナリト

「フエリー氏ノ所説ニ據レハ犯罪ノ内ニ在リテモ竊盜奸淫殊ニ破倫的奸淫又  
 ハ或種類ノ人命犯等ハ社會的原因ニ基クコト最モ多ク強姦強盜又ハ慘虐

ナル殺傷犯等ハ個人的原因ヨリ來ルコト最モ多ク其他冬季ニ於テ財產ニ對  
 スル犯罪ヲ増加シ夏季ニ於テ殺傷奸淫等ニ關スル犯罪ノ増加ヲ見ルカ如キ  
 ハ物質的原因ノ影響アル所以ヲ證明スルニ足レリト

各國近年ノ犯罪統計表ノ指示スル現象ニ就テ之ヲ觀ルニ重罪殊ニ人命等ニ對  
 スル殘忍の行爲ハ漸漸減少スルノ傾向アルニ反シ輕罪殊ニ財產ニ對スル諸般  
 輕微ノ犯罪ハ年年著シク増加ヲ致シツアルモノノ如シ重罪ノ減少スルハ  
 社會文明ノ進步ニ伴フ人心變化ノ結果ト謂フヘシ輕罪ノ増加スルハ社會的  
 由殊ニ經濟的關係ノ變動法律規則ノ増加等與リテ最モ力アリト謂フヲ得ヘク  
 之ヲ要スルニ社會文明ノ進步ハ少クモ犯罪ノ性質ヲ變化スルノ原動力アルヘキ  
 コト疑フヘカラサルノ事實ニシテ今ハ腕力の犯罪ノ時代ハ既ニ經過シ去リテ  
 腦力の犯罪時代ニ在リト斷言スルモ可ナリ(本章四頁參看)

第二節 犯罪者

犯罪者ハ社會總テノ階級種族ヲ通シテ之ヲ出タササルハナシ然リ而シテ其之ヲ



出ス上ニ於テハ男女年齢職業身分宗教等ノ異同ニ依リ自ラマタ彼此多少ノ差等アルヲ見ルハ事實ナリ即チ女子ハ男子ニ比シ其風俗慣習性情教育等ノ結果下シテ犯罪者ヲ出スノ割合極メテ寡少ナリ

國ニ依リ多少ノ相異アリト雖モ歐洲文明各國ノ調査ニ依レハ大約男ノ犯罪者百人ニ付キ女ノ犯罪者二十一人ノ割合ニ該當ス我カ國ニ於ケル犯罪女子ノ割合ハ尙ホ一層僅少ニシテ犯罪男子百人ニ對スル凡ソ七人乃至八人ニ過キス或學者ノ說ニ犯罪女子ノ數ハ文明ノ進歩ト共ニ漸次遞加ヲ來スノ事實アルヲ以テ之ヲ觀レハ其數ノ寡少ナルハ偶以テ文明ノ低度ナルヲ表白スルモノト謂フヘク現ニ歐洲ニ在リテモ葡萄牙ノ如キ比較的文明ノ低度ナル國ニ在リテハ犯罪女子ノ男子百人ニ對スル僅僅八人ノ割合ナルニ反シ英佛等諸國ニ於テハ犯罪女子ノ割合二十一人ノ多キニ在ルヲ以テモ之ヲ證スルニ足レリト云フ但シ女子ノ内ニ在リテハ罪質ニ由リ其數ノ上ニ著シキ相異アリ即チ概シテ牙保媒介竊盜誹毀殺人放火等ニ對スル犯罪女子ノ割合ハ比較的最も多數ヲ占ムルノ事實アルヲ見ル

犯罪能力ノ年齢ニ就テハ假ニ之ヲ十二歳乃至二十一歳未成年期二十歳乃至四十歳成年期四十歳乃至六十歳初期及ヒ六十歳以上老衰期ノ四期ニ別チテ其犯罪ト相關係スル所ノ實況ヲ調査スルニ概シテ壯年有爲ノ時期即チ成年期ハ同時ニマタ犯罪行為ノ傾向ヲ有スルコト最も多ク時期ナルノ事實ヲ發見スヘシ

獨逸ニ於ケル最近ノ調査ニ依レハ人口十萬人各期同年齡ノニ對シ

- 未成年期ノ犯罪者 八百七十四人
- 成年期ノ犯罪者 千四百四十七人
- 初老期ノ犯罪者 八百六十四人
- 老衰期ノ犯罪者 二百七十八人

ノ割合ニ該當ス

犯罪女子ノ年齢ニ對スル關係ヲ調査スルニ女子ニ在リテハ男子ト大ニ其趣ヲ異ニシ初老期ニ於ケル犯罪者ノ割合ハ略ホ成年期ニ於ケル數ト同一ナルハ事實アルヲ見ル一般婦女ノ境遇ノ變遷ヲ解スル所ノ者ハ容易ニ其理由ヲ

發見スルヲ得ヘシ

少年犯罪者ノ割合ニ就テハ本章七頁ヲ參看スヘシ

職業上ノ關係ニ就テ之ヲ觀ルニ概シテ生計上ノ締括ナリ放縱不羈ノ行動ニ陷

リ易キ職業ニ従事スル者例ヘハ職工傭人労働者等ノ如キハ犯罪ニ陥ルノ割

合甚ク強シ殊ニ犯罪者ノ多數カ一定ノ職業ヲ有セサル者ナルノ事實ヲ以テ之

ヲ觀ルモ職業ト犯罪トハ最モ密接ノ關係ヲ有スルモノナルコトヲ知ルヲ得ヘシ

職業ノ種類ニ依リ自ラマタ犯罪ノ性質ヲ異ニスルノ事實アルヲ見ル例ヘハ

收賄罪ハ官吏ニ伴ヒ委託金費消ヘ銀行員ニ伴ヒ彫刻業者ノ貨幣偽造ヲ犯ス

者多キノ類是ナリ

土地ト犯罪者ノ關係ニ就テ之ヲ言ヘハ物質的又ハ社會的種種ノ原因ヨリ生蓋

力不發達ノ地方ハ富饒膏腴ノ地方ニ比シテ犯罪者ヲ出スノ割合比較的多數ナル

ヲ免レナルモノノ如シ

宗教ト犯罪トノ關係ニ就テハ格別著シキ現象アルヲ見スト雖モ犯罪者ノ多

數ハ無宗教者タハ確乎タル宗教上ノ信仰心ニ缺乏スル所ヨリ之ヲ觀レハ少ク

○三十二年度調査報告書

民法部  
 民法第一編  
 民法第二編  
 民法第三編  
 民法第四編  
 民法第五編  
 民法第六編  
 民法第七編  
 民法第八編  
 民法第九編  
 民法第十編  
 民法第十一編  
 民法第十二編  
 民法第十三編  
 民法第十四編  
 民法第十五編  
 民法第十六編  
 民法第十七編  
 民法第十八編  
 民法第十九編  
 民法第二十編  
 民法第二十一編  
 民法第二十二編  
 民法第二十三編  
 民法第二十四編  
 民法第二十五編  
 民法第二十六編  
 民法第二十七編  
 民法第二十八編  
 民法第二十九編  
 民法第三十編  
 民法第三十一編  
 民法第三十二編  
 民法第三十三編  
 民法第三十四編  
 民法第三十五編  
 民法第三十六編  
 民法第三十七編  
 民法第三十八編  
 民法第三十九編  
 民法第四十編  
 民法第四十一編  
 民法第四十二編  
 民法第四十三編  
 民法第四十四編  
 民法第四十五編  
 民法第四十六編  
 民法第四十七編  
 民法第四十八編  
 民法第四十九編  
 民法第五十編  
 民法第五十一編  
 民法第五十二編  
 民法第五十三編  
 民法第五十四編  
 民法第五十五編  
 民法第五十六編  
 民法第五十七編  
 民法第五十八編  
 民法第五十九編  
 民法第六十編  
 民法第六十一編  
 民法第六十二編  
 民法第六十三編  
 民法第六十四編  
 民法第六十五編  
 民法第六十六編  
 民法第六十七編  
 民法第六十八編  
 民法第六十九編  
 民法第七十編  
 民法第七十一編  
 民法第七十二編  
 民法第七十三編  
 民法第七十四編  
 民法第七十五編  
 民法第七十六編  
 民法第七十七編  
 民法第七十八編  
 民法第七十九編  
 民法第八十編  
 民法第八十一編  
 民法第八十二編  
 民法第八十三編  
 民法第八十四編  
 民法第八十五編  
 民法第八十六編  
 民法第八十七編  
 民法第八十八編  
 民法第八十九編  
 民法第九十編  
 民法第九十一編  
 民法第九十二編  
 民法第九十三編  
 民法第九十四編  
 民法第九十五編  
 民法第九十六編  
 民法第九十七編  
 民法第九十八編  
 民法第九十九編  
 民法第一百編

發見スルヲ得ヘシ

少年犯罪者ノ割合ニ就テハ本章七頁ヲ參看スヘシ  
職業上ノ關係ニ就テ之ヲ觀ルニ概シテ生計上ノ締結ナリ放縱不羈ノ行動ニ陷  
リ易キ職業ニ從事スル者例ヘハ職工傭人勞働者等ノ如キハ犯罪ニ陷ルノ割  
合甚ク強シ殊ニ犯罪者ノ多數カ一定ノ職業ヲ有セサル者ナルノ事實ヲ以テ之  
ヲ觀ルモ職業ト犯罪トハ最モ密接ノ關係ヲ有スルモノナルコトヲ知ルヲ得ヘシ  
職業ノ種類ニ依リ自ラマタ犯罪ノ性質ヲ異ニスルノ事實アルヲ見ル例ハ  
賭博罪ハ官吏ニ伴ヒ委託金費消ハ銀行員ニ伴ヒ彫刺業者ノ貨幣偽造ヲ犯ス  
者多キノ類是ナリ  
土地ト犯罪者ノ關係ニ就テ之ヲ言ヘハ物質的又ハ社會的種種ノ原因ヨリ生  
力不發達ノ地方ハ富饒膏腴ノ地方ニ比シ犯罪者ヲ出スノ割合比較的多數ナル  
ヲ免レサルモノノ如シ  
宗教ト犯罪トノ關係ニ就テハ格別著シキ現象アルヲ見スト雖モ犯罪者ノ多  
數ハ無宗教若クハ確乎タル宗教上ノ信仰心ニ缺乏スル所ヨリ之ヲ觀レハ少シ

○三十三年度講義録掲載課目及擔任講師

民法總則	自一至四	法律學士	鶴丈一郎
民法總則	自一至六	法律學士	塚田達二郎
民法總則	自一至七	法律學士	荒井賢太郎
民法物權	第一章	法律學士	富井政章
民法債權	自一至二	法律學士	梅謙次郎
民法債權	自一至三	法律學士	棟居喜九郎
民法債權	自一至五	法律學士	兩角重次郎
民法債權	自一至七	法律學士	若掛禮重
民法債權	自一至八	法律學士	岩田忠一郎
民法債權	自一至九	法律學士	遠藤次郎
民法債權	自一至二	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至三	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至四	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至五	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至六	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至七	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至八	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至九	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至一〇	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至一一	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至一二	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至一三	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至一四	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至一五	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至一六	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至一七	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至一八	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至一九	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至二〇	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至二一	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至二二	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至二三	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至二四	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至二五	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至二六	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至二七	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至二八	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至二九	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至三〇	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至三一	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至三二	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至三三	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至三四	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至三五	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至三六	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至三七	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至三八	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至三九	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至四〇	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至四一	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至四二	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至四三	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至四四	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至四五	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至四六	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至四七	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至四八	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至四九	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至五〇	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至五一	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至五二	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至五三	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至五四	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至五五	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至五六	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至五七	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至五八	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至五九	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至六〇	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至六一	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至六二	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至六三	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至六四	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至六五	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至六六	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至六七	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至六八	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至六九	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至七〇	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至七一	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至七二	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至七三	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至七四	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至七五	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至七六	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至七七	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至七八	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至七九	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至八〇	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至八一	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至八二	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至八三	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至八四	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至八五	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至八六	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至八七	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至八八	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至八九	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至九〇	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至九一	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至九二	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至九三	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至九四	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至九五	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至九六	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至九七	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至九八	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至九九	法律學士	若水一六郎
民法債權	自一至一〇〇	法律學士	若水一六郎

### 校外生規則摘要

- 一 講義録ハ毎月二回發行シ滿一今年ヲ以テ卒業トス
- 一 講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ
  - 第一部 毎月五日 二十日
  - 第二部 毎月十日 廿五日
  - 第三部 毎月十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講議會、討論會ニ出席傍聽スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校內生三年級ニ編入セラルルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得
- 一 但シ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三個月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係トスヘシ

明治廿二年十二月九日內務省許可

明治三十三年三月十一日印刷

明治二十三年三月十五日發行

編輯者 小田 幹治 郎  
東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地

印刷者 金子 鐵五郎  
東京市芝區四ノ久保明光町十一番地

印刷所 金子 活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

指定

(電話番町百七十四番)